

第2章

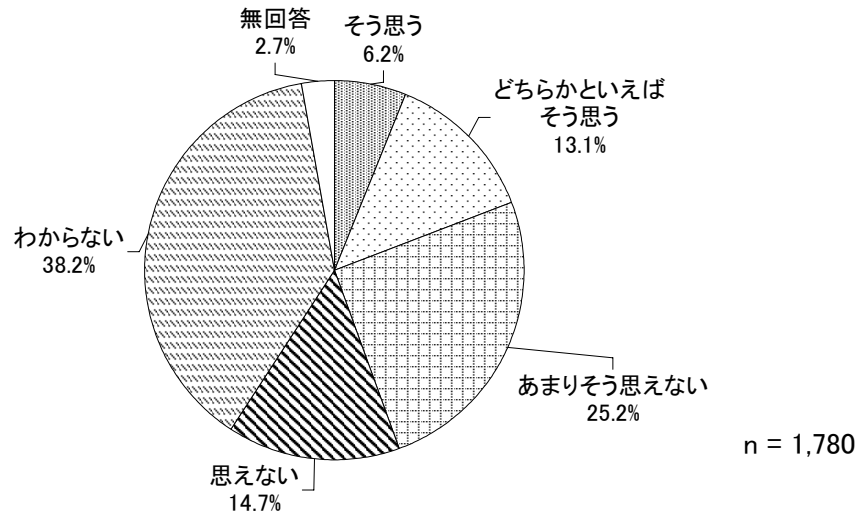
6. 「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の目標値に対する達成度

6-1 市民協働の推進状況

◇「そう思う」が6.2%にとどまる

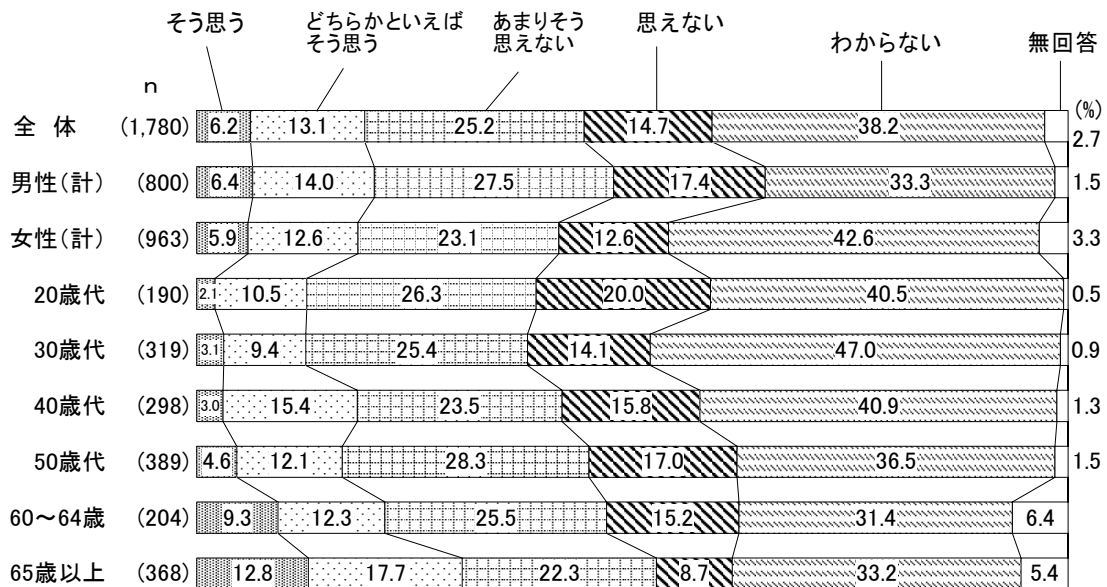
問28 あなたは、市が市民協働のまちを進めていると感じますか。(〇は1つだけ)

図6-1-1



市が市民協働のまちを進めていると感じるかどうか聞いたところ、「そう思う」は6.2%にとどまり、「どちらかといえばそう思う」(13.1%)と合わせた『そう思う』は2割弱(19.3%)となっている。一方、「あまりそう思えない」(25.2%)と「思えない」(14.7%)を合わせた『思えない』は約4割(39.9%)となっている。(図6-1-1)

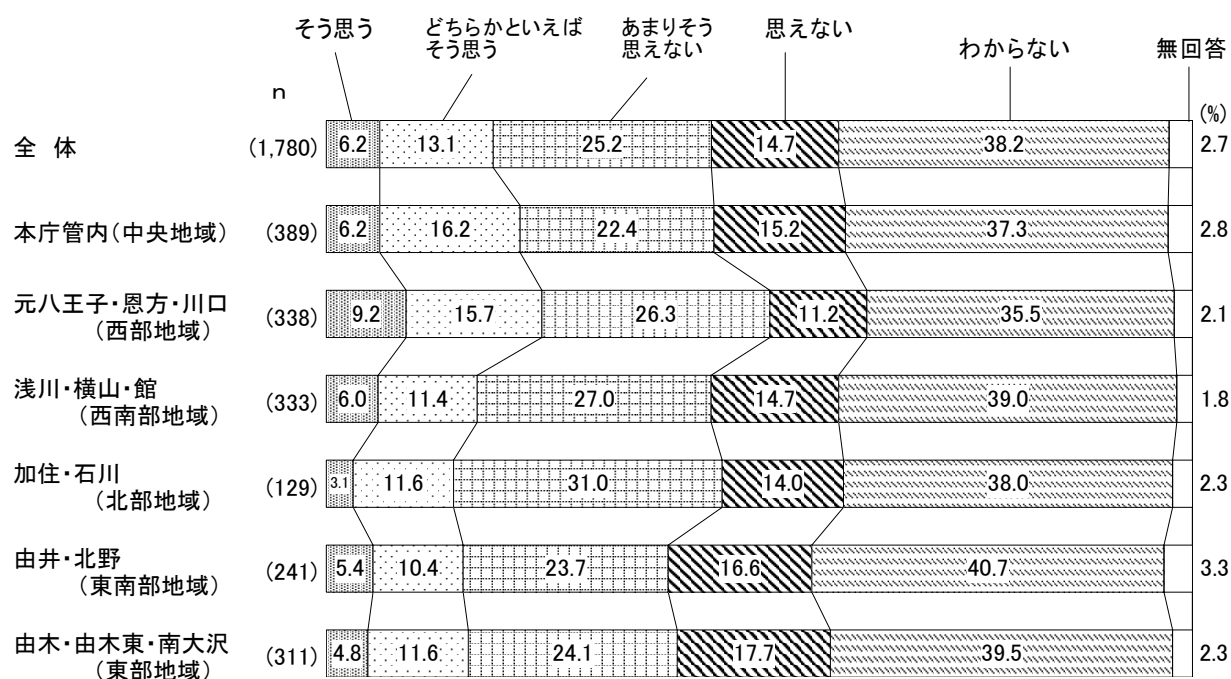
図6-1-2 市民協働の推進状況—性別・年齢別



性別にみると、「思えない」は男性のほうが4.8ポイント高く、「わからない」は女性のほうが9.3ポイント高い。

年齢別にみると、『そう思う』は60歳以上で2割を超え、高くなっている。(図6-1-2)

図6-1-3 市民協働の推進状況—居住地域別



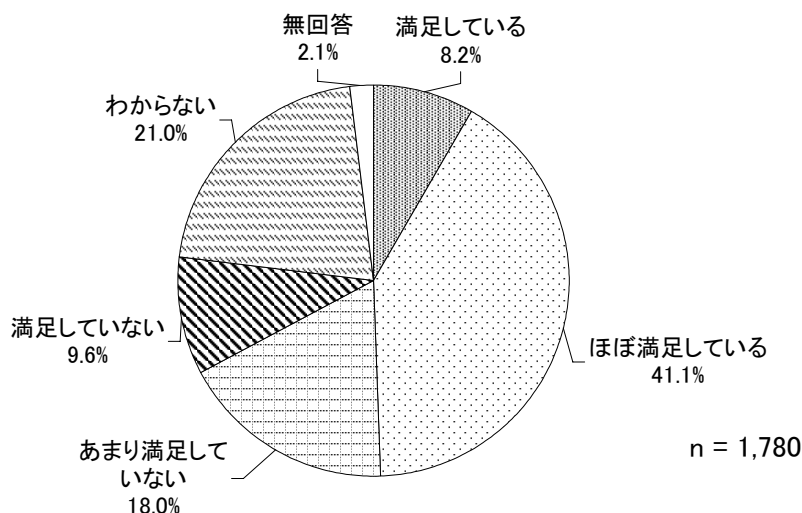
居住地域別にみると、『そう思う』は元八王子・恩方・川口（西部地域）で2割台半ば（24.9%）と最も高く、加住・石川（北部地域）で1割台半ば（14.7%）と最も低くなっている。（図6-1-3）

6-2 現在の市政情報入手方法の満足度

◇『満足』がほぼ5割

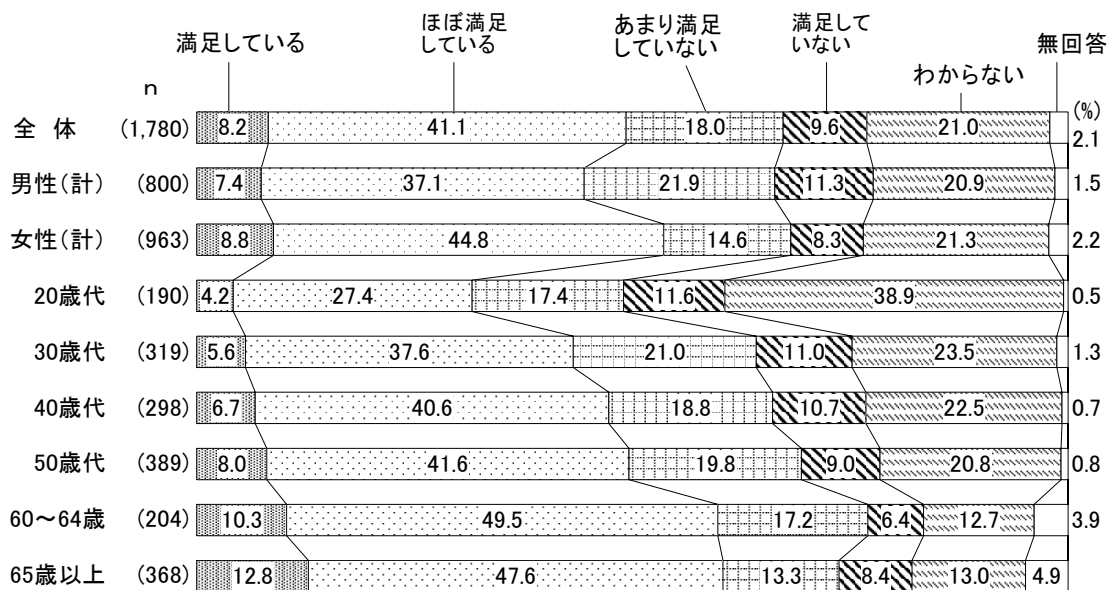
問29 市は、市政の情報を、積極的に配信・提供していますが、あなたは、現在の市政情報の入手方法に満足していますか。(○は1つだけ)

図6-2-1



市政情報の入手方法の満足度について聞いたところ、「ほぼ満足している」は4割強（41.1%）と最も高く、「満足している」（8.2%）と合わせた『満足』は5割弱（49.3%）となっている。一方、「あまり満足していない」（18.0%）と「満足していない」（9.6%）を合わせた『満足していない』は、3割弱（27.6%）となっている。（図6-2-1）

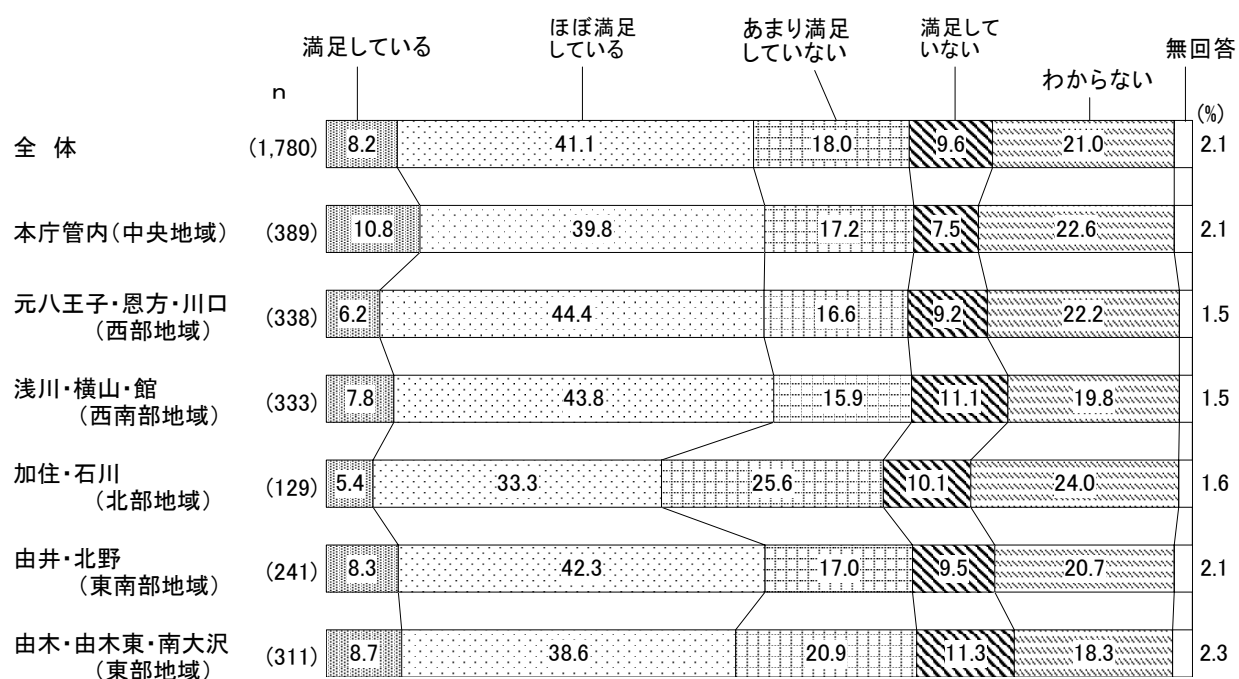
図6-2-2 現在の市政情報入手方法の満足度—性別・年齢別



性別にみると、『満足』は女性のほうが9.1ポイント高い。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど満足度も高くなる傾向がみられる。（図6-2-2）

図6-2-3 現在の市政情報入手方法の満足度—居住地域別



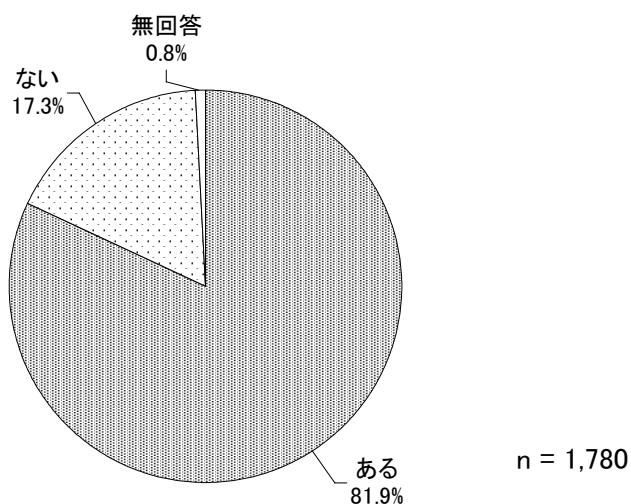
居住地域別にみると、加住・石川（北部地域）で『満足』が4割弱（38.7%）と他の地域に比べ低くなっている。（図6-2-3）

6-3 市の窓口の利用の有無

◇利用したことが「ある」人は大多数の8割強

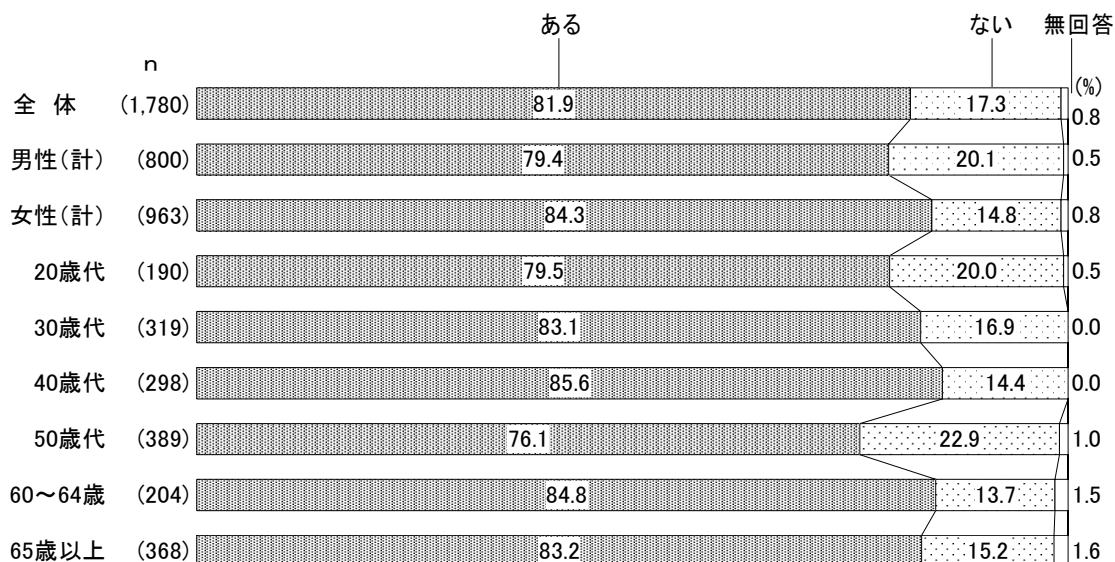
問30 あなたは、この1年間に市役所、事務所、図書館、体育館、保健センターなど、市の窓口を利用したことはありますか。(○は1つだけ)

図6-3-1



この1年間に市役所、事務所、図書館、体育館、保健センターなど、市の窓口を利用したことがあるか聞いたところ、「ある」が大多数の8割強(81.9%)を占め、「ない」は2割弱(17.3%)となっている。(図6-3-1)

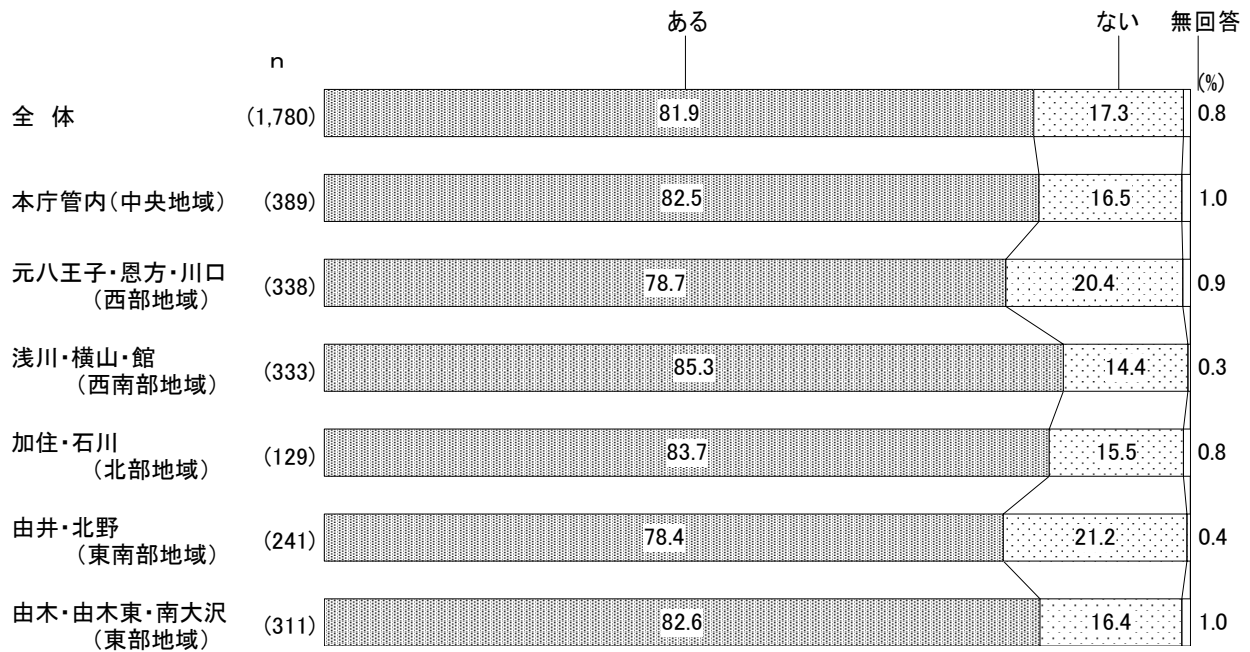
図6-3-2 市の窓口の利用の有無-性別・年齢別



性別にみると、「ある」は女性のほうが4.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「ある」は20歳代と50歳代を除き、8割を超えている。(図6-3-2)

図 6-3-3 市の窓口の利用の有無—居住地域別



居住地域別にみると、「ある」は元八王子・恩方・川口（西部地域）と由井・北野（東南部地域）を除き、8割を超えている。（図6-3-3）

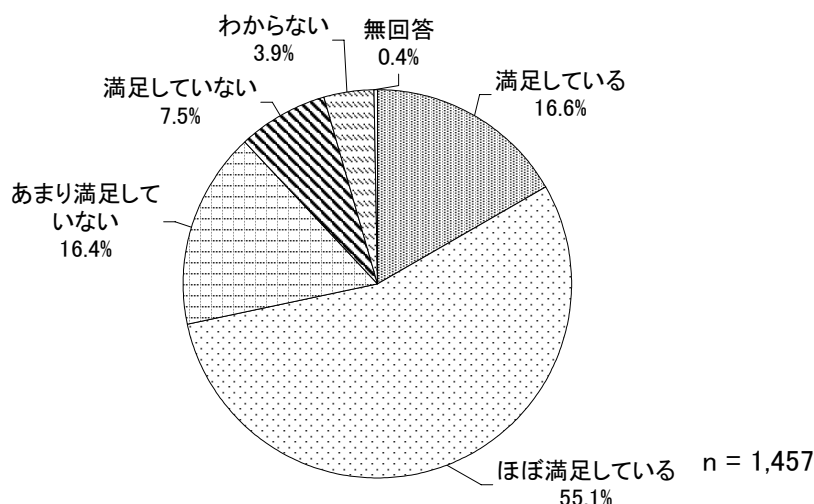
6-4 市の窓口サービスの満足度

◇『満足』が7割を占める

(問30で「ある」とお答えの方に)

問30-1 あなたは、市の窓口サービスに満足していますか。(○は1つだけ)

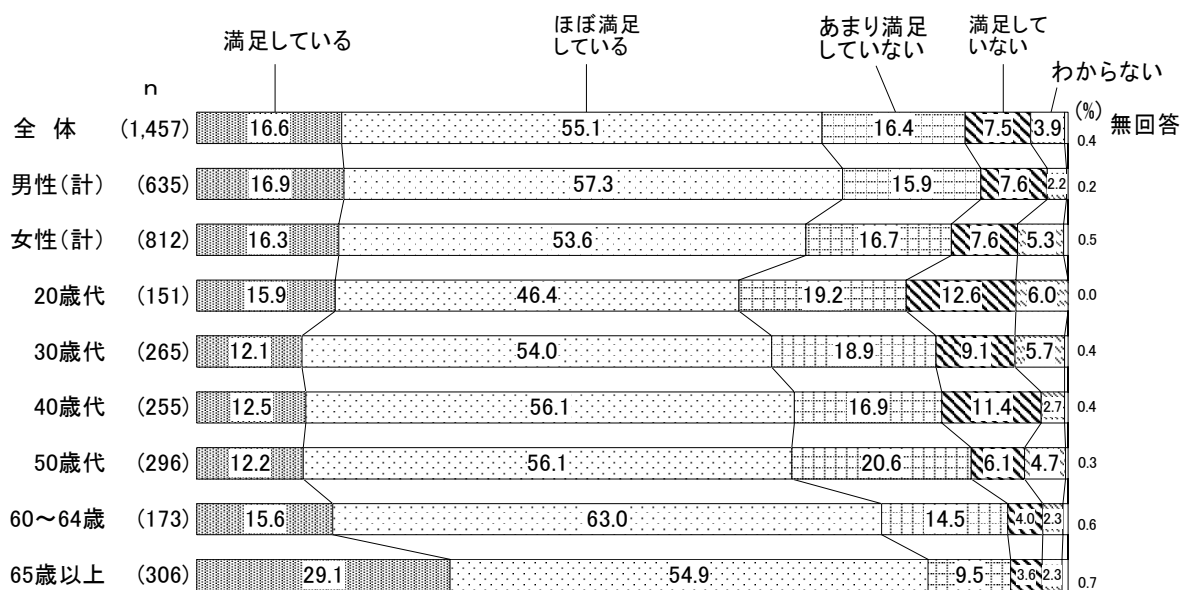
図6-4-1



この一年間で市の窓口の利用が「ある」(1,457人)と答えた人に、市の窓口サービスの満足度について聞いたところ、「ほぼ満足している」が5割台半ば(55.1%)と最も高く、「満足している」(16.6%)と合わせた『満足』は7割強(71.7%)となっている。「あまり満足していない」(16.4%)と「満足していない」(7.5%)を合わせた『満足していない』は2割強(23.9%)となっている。

(図6-4-1)

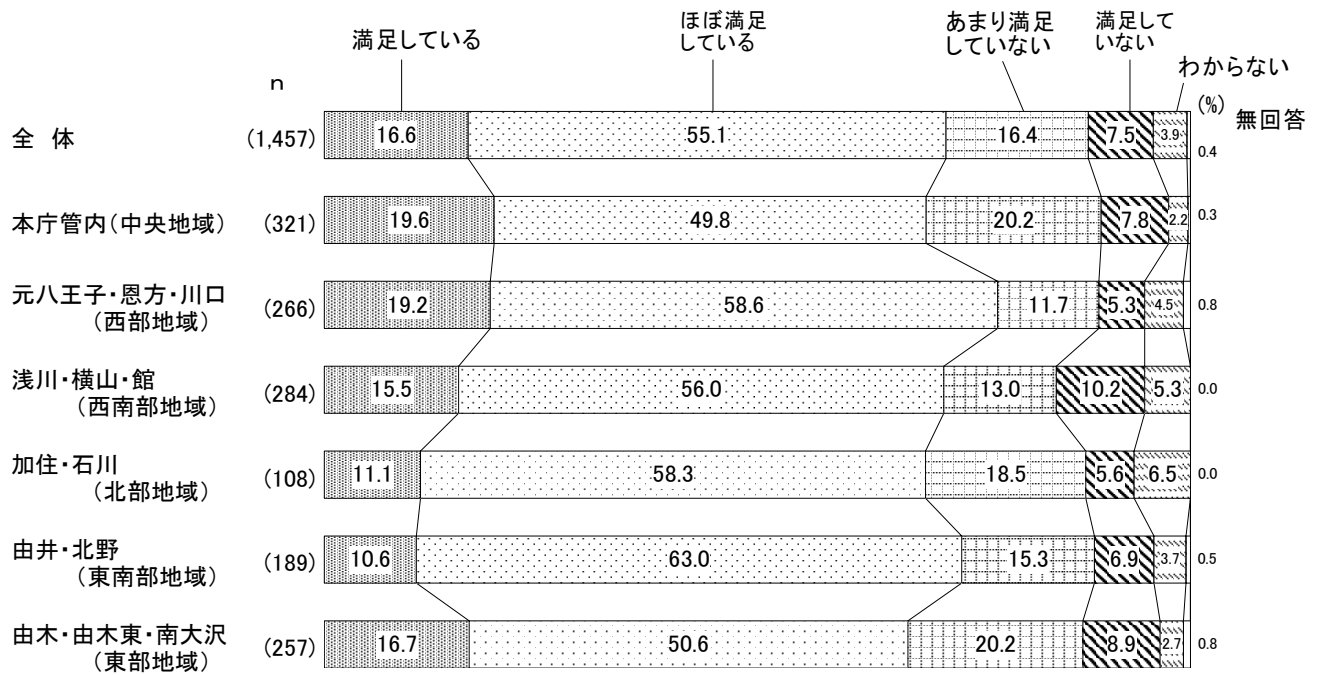
図6-4-2 市の窓口サービスの満足度-性別・年齢別



性別には大きな差はみられない。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど『満足』の割合が高くなる傾向がみられる。(図6-4-2)

図6-4-3 市の窓口サービスの満足度—居住地域別



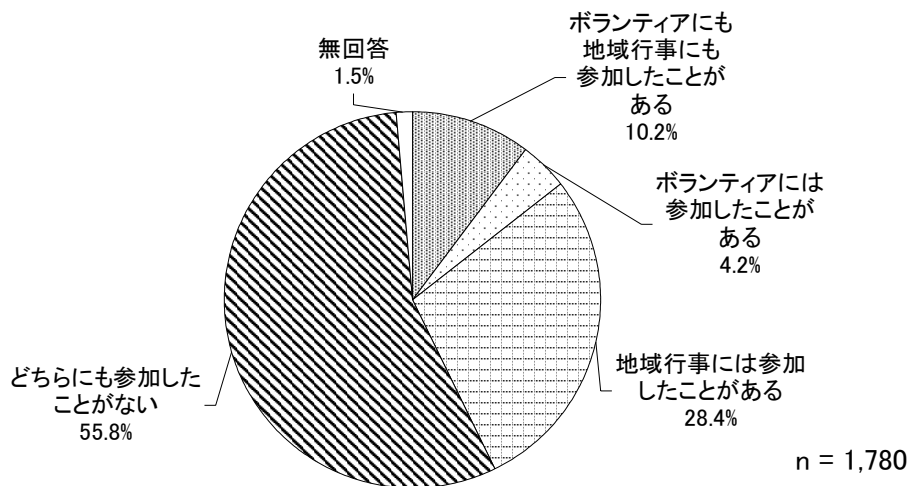
居住地域別にみると、『満足』は元八王子・恩方・川口（西部地域）で8割弱（77.8%）と最も高く、由木・由木東・南大沢（東部地域）で7割弱（67.3%）と最も低くなっている。（図6-4-3）

6-5 この1年間の地域行事への参加

◇『参加したことがある』が4割強

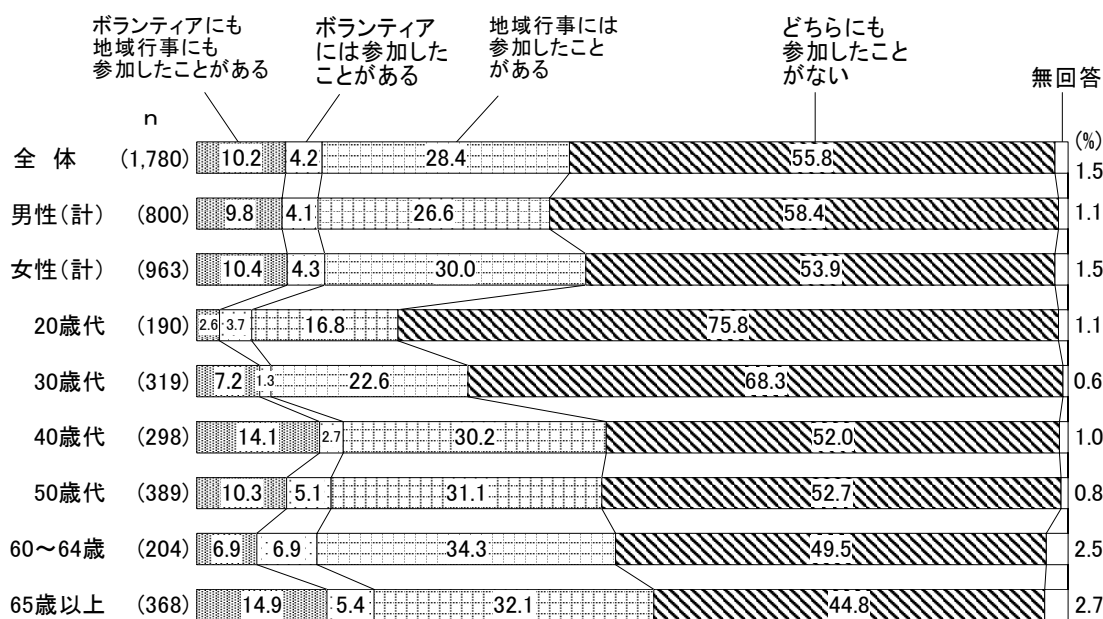
問31 あなたは、この1年間に公園清掃などのボランティア活動や盆踊りなど地域行事に参加したことがありますか。(〇は1つだけ)

図6-5-1



この1年間に公園清掃などのボランティア活動や盆踊りなどの地域行事に参加したことがあるか聞いたところ、「地域行事には参加したことがある」は3割弱(28.4%)、「ボランティアにも地域行事にも参加したことがある」(10.2%)、「ボランティアには参加したことがある」(4.2%)と続き、3項目を合わせた『参加したことがある』は4割強(42.8%)となっている。一方で、「どちらにも参加したことがない」は5割台半ば(55.8%)と過半数を占めている。(図6-5-1)

図6-5-2 この1年間の地域行事への参加—性別・年齢別

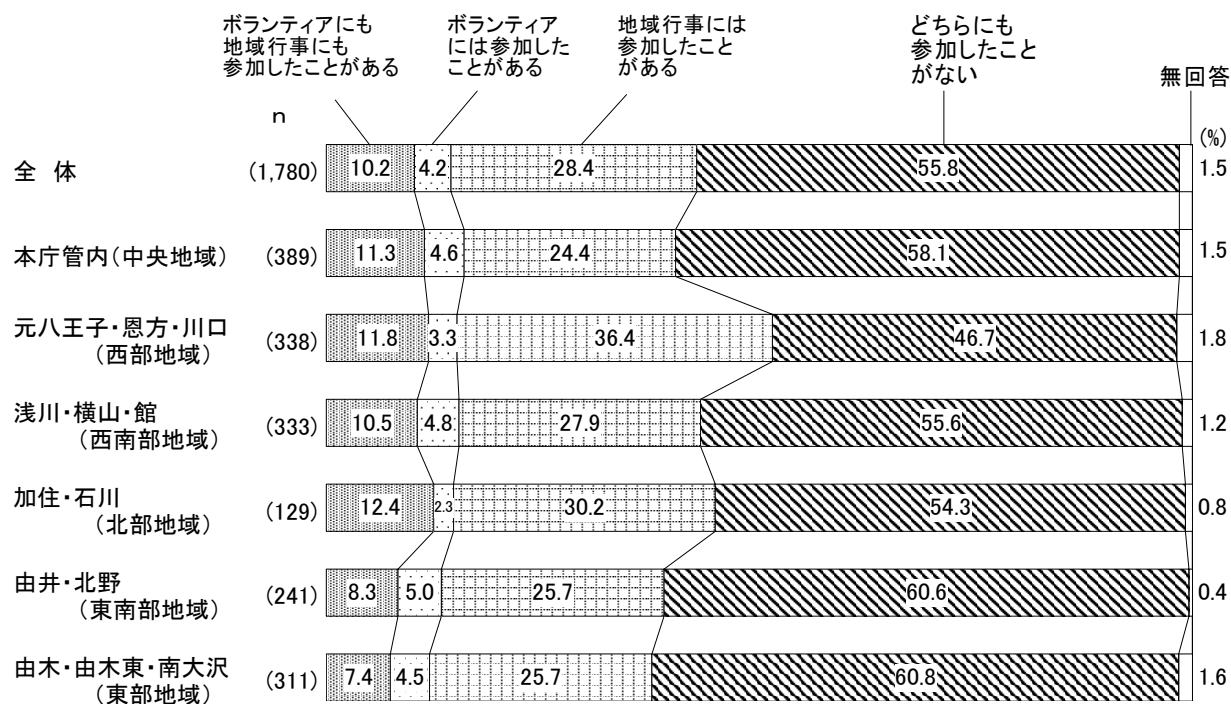


性別には大きな差はみられない。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど『参加したことがある』が増加する傾向がみられる。

(図6-5-2)

図6-5-3 この1年間の地域行事への参加—居住地域別

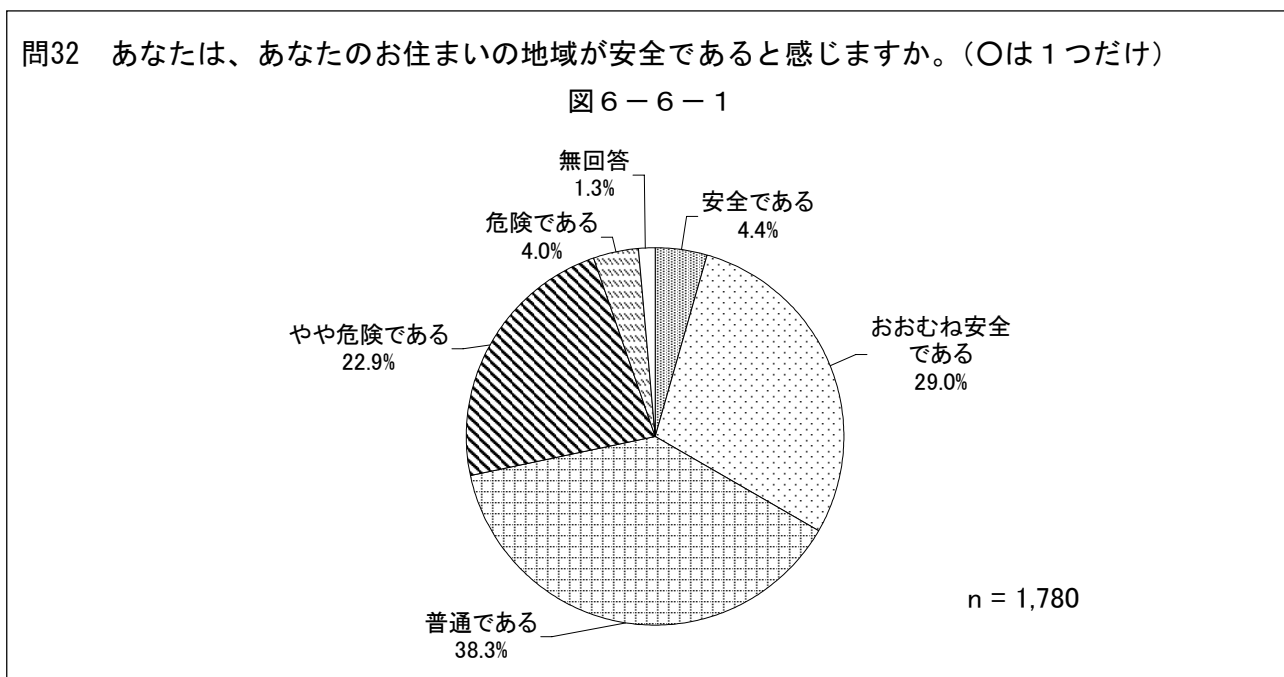


居住地域別にみると、『参加したことがある』は元八王子・恩方・川口（西部地域）で5割強（51.5%）と最も高く、由木・由木東・南大沢（東部地域）で4割弱（37.6%）と最も低くなっている。

(図6-5-3)

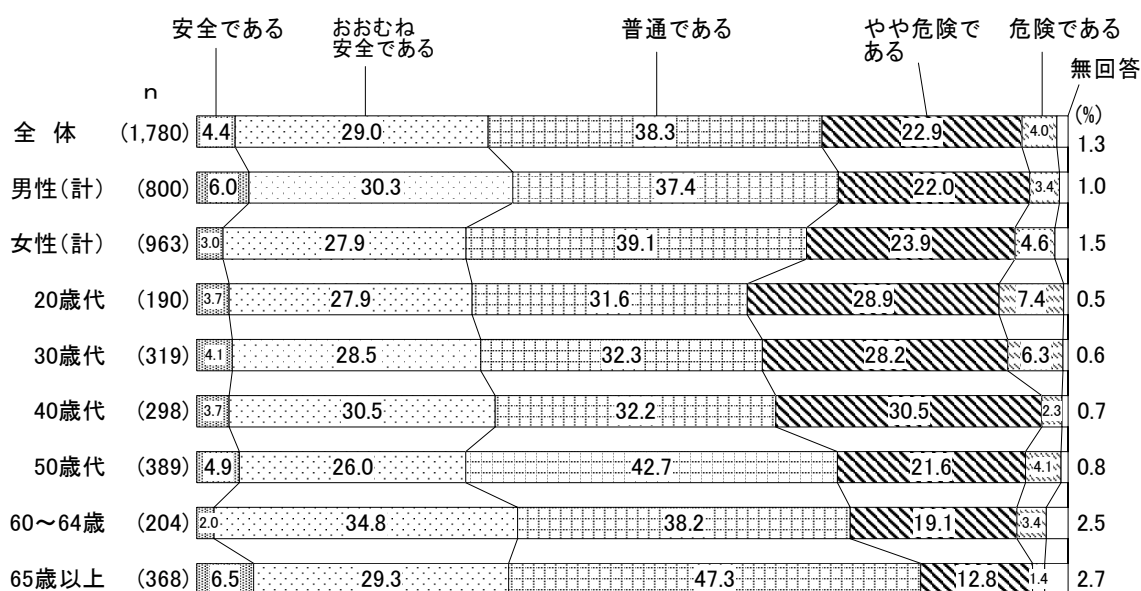
6-6 日常生活環境の安全度

◇「普通である」が4割弱



住まいの地域が安全であると感じるかどうかが聞いたところ、「普通である」が4割弱（38.3%）と最も高い。「安全である」（4.4%）と「おおむね安全である」（29.0%）を合わせた『安全である』は3割強（33.4%）となっている。「やや危険である」と「危険である」を合わせた『危険である』は2割台半ば（26.9%）となっている。（図6-6-1）

図6-6-2 日常生活環境の安全度—性別・年齢別

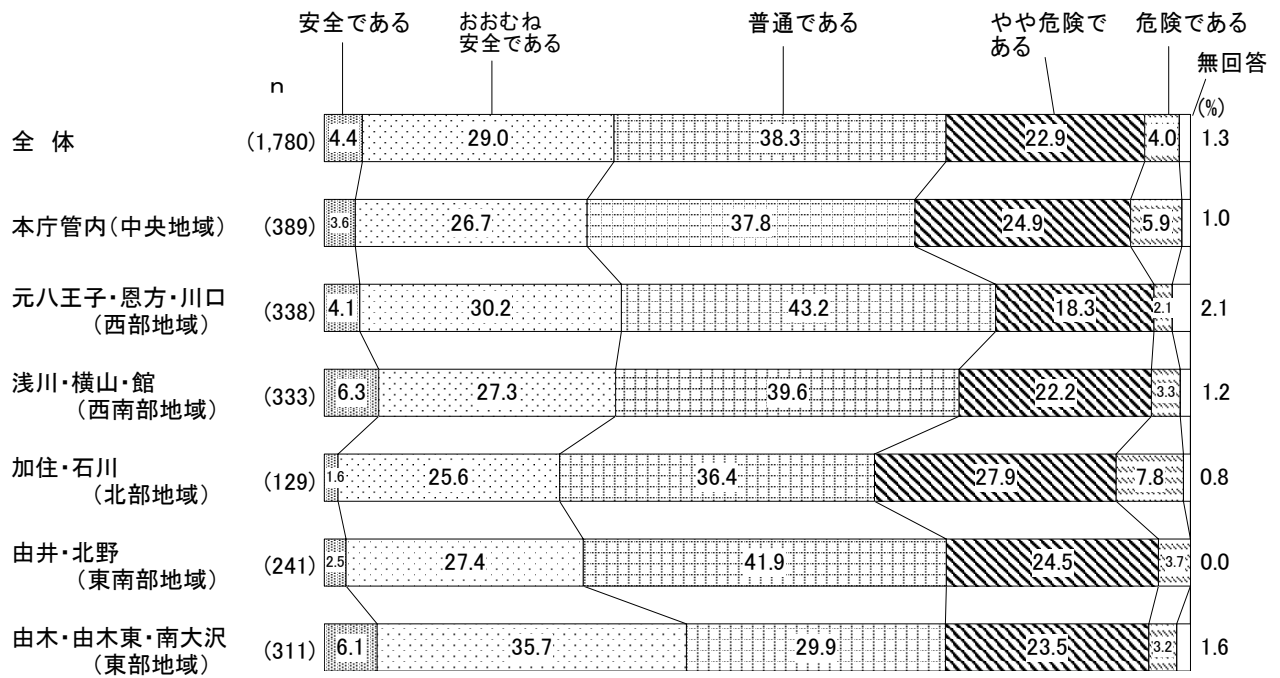


性別にみると、『安全である』は男性のほうが5.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢が低くなるほど『危険である』の割合が増加する傾向がみられる。

(図6-6-2)

図6-6-3 日常生活環境の安全度—居住地域別



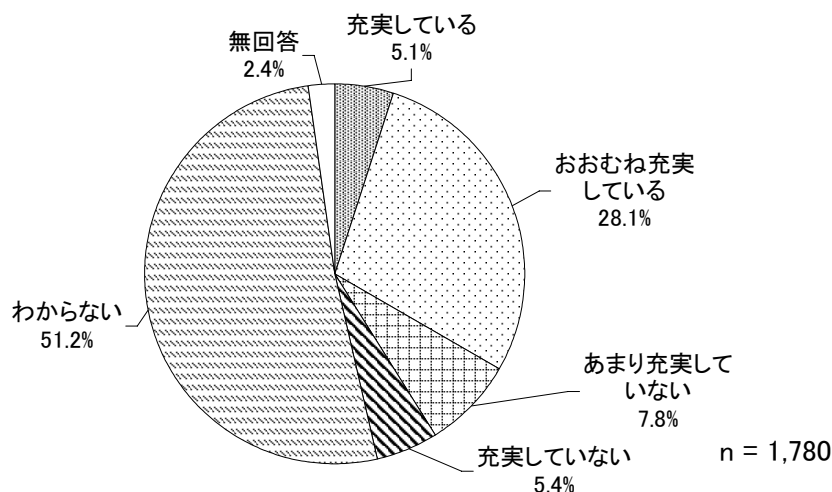
居住地域別にみると、『安全である』は由木・由木東・南大沢（東部地域）で4割強（41.8%）と最も高く、加住・石川（北部地域）で3割弱（27.2%）と最も低くなっている。（図6-6-3）

6-7 市の相談窓口の充実度

◇『充実している』が3割強

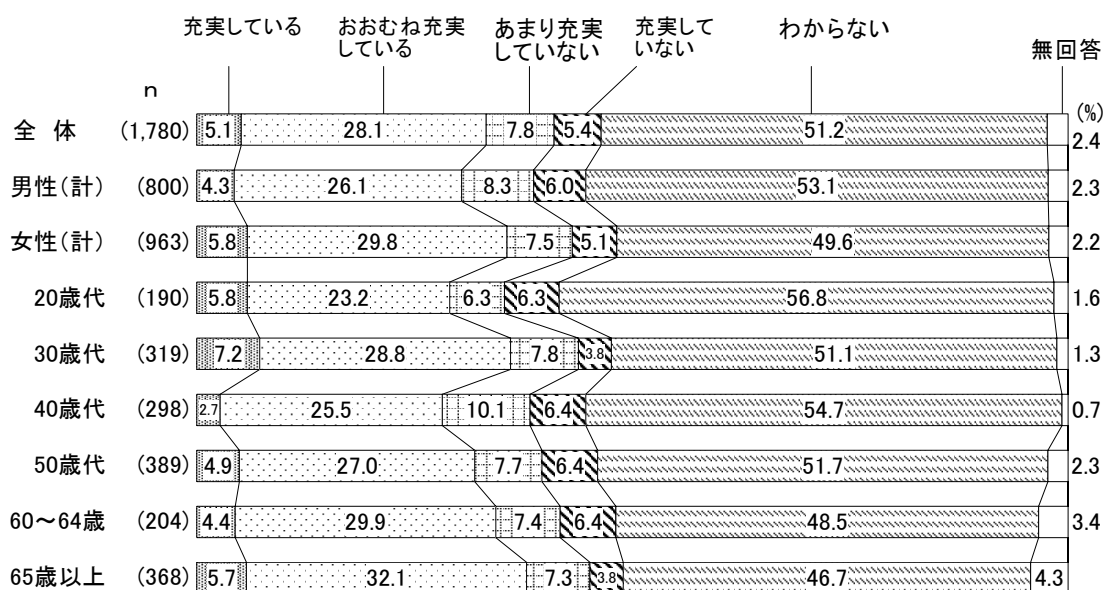
問33 市では、様々な相談を行っています、あなたは、市の相談窓口が充実していると思いますか。(〇は1つだけ)

図6-7-1



市の相談窓口が充実しているかどうか聞いたところ、「おおむね充実している」(28.1%)と「充実している」(5.1%)を合わせた『充実している』は3割強(33.2%)となっている。一方、「あまり充実していない」(7.8%)と「充実していない」(5.4%)を合わせた『充実していない』は1割強(13.2%)となっている。(図6-7-1)

図6-7-2 市の相談窓口の充実度—性別・年齢別

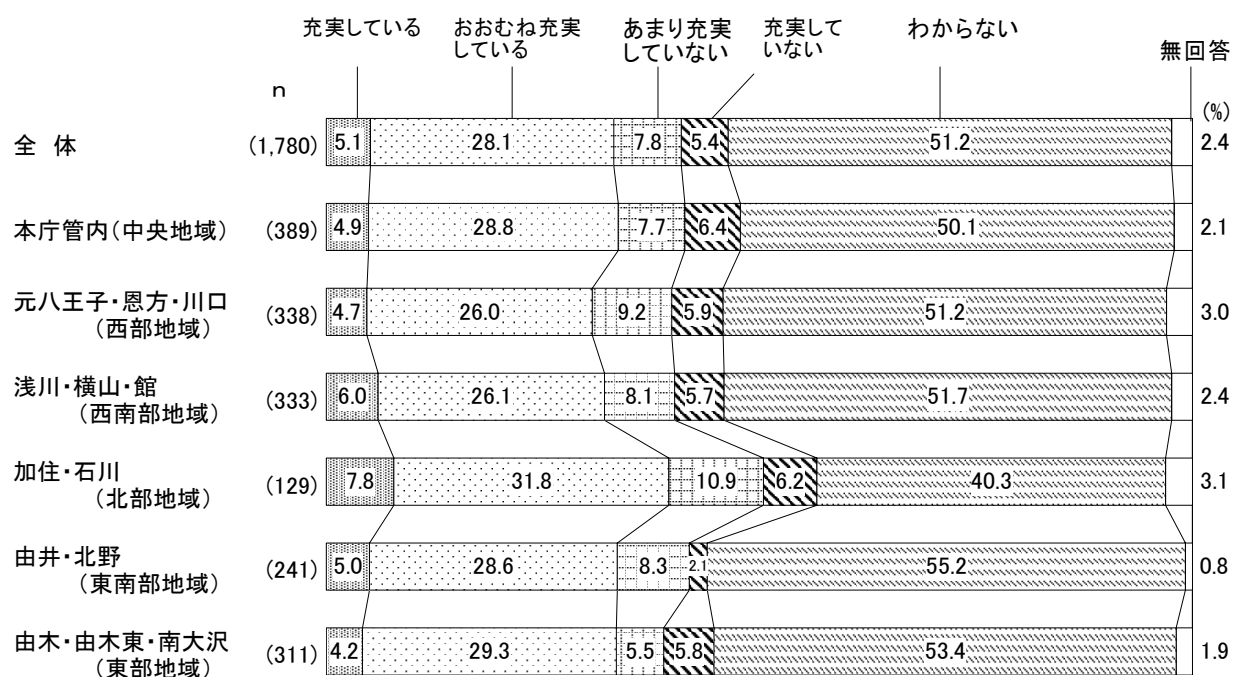


性別にみると、女性のほうが『充実している』が5.2ポイント高い。

年齢別にみると、40歳代以降、年齢が高くなるほど『充実している』が増加する傾向がみられる。

(図6-7-2)

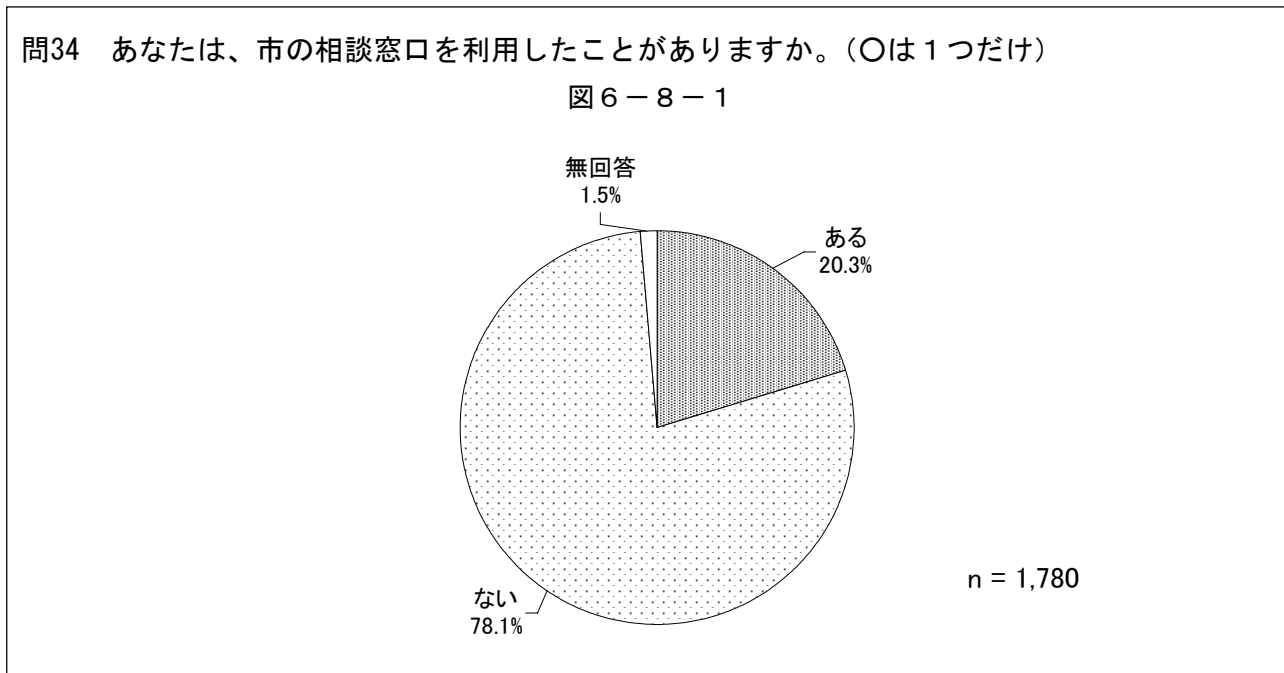
図 6-7-3 市の相談窓口の充実度—居住地域別



居住地域別にみると、『充実している』は加住・石川（北部地域）で約4割（39.6%）と最も高くなっている。（図6-7-3）

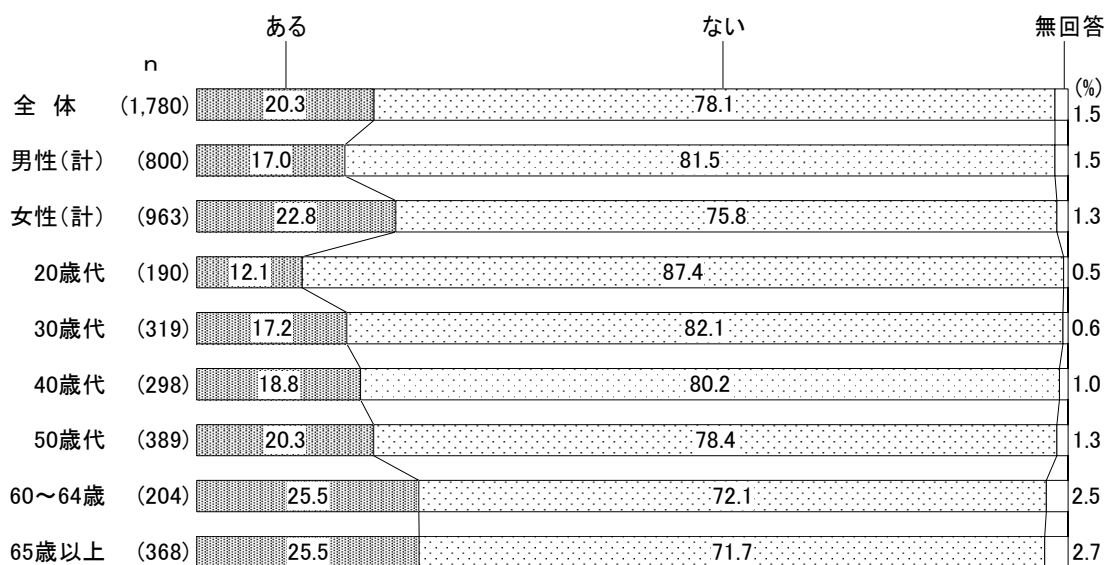
6-8 市の相談窓口の利用の有無

◇利用したことが「ある」人は2割にとどまる



市の相談窓口を利用したことがあるか聞いたところ、「ない」が大多数の8割弱（78.1%）を占め、「ある」は約2割（20.3%）となっている。（図6-8-1）

図6-8-2 市の相談窓口の利用の有無—性別・年齢別

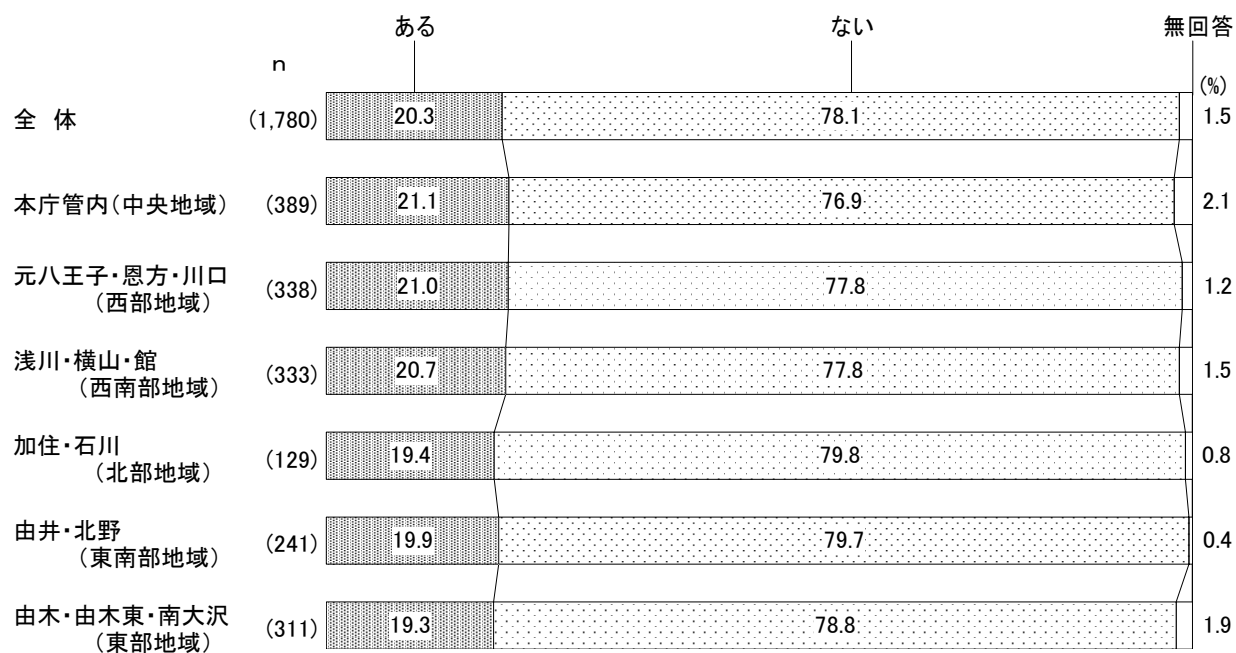


性別にみると、女性のほうが「ある」が5.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど「ある」の割合が増加する傾向がみられる。

(図6-8-2)

図6-8-3 市の相談窓口の利用の有無—居住地域別



居住地域別には大きな差はみられない。(図6-8-3)

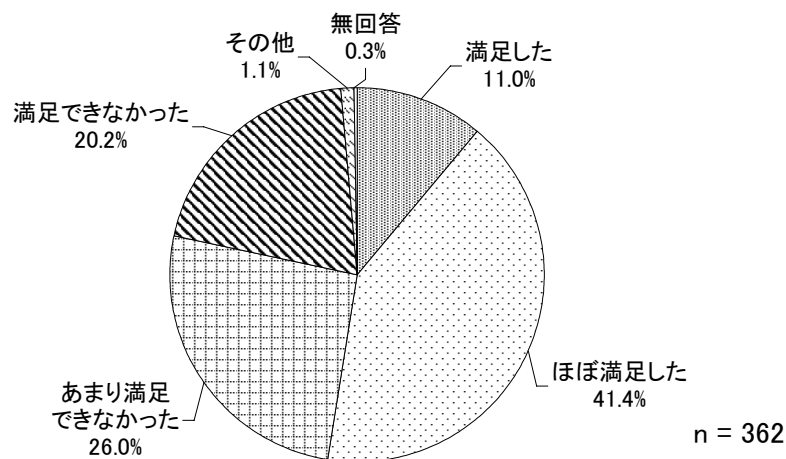
6-9 相談窓口の満足度

◇『満足した』が5割強

(問34で「ある」とお答えの方に)

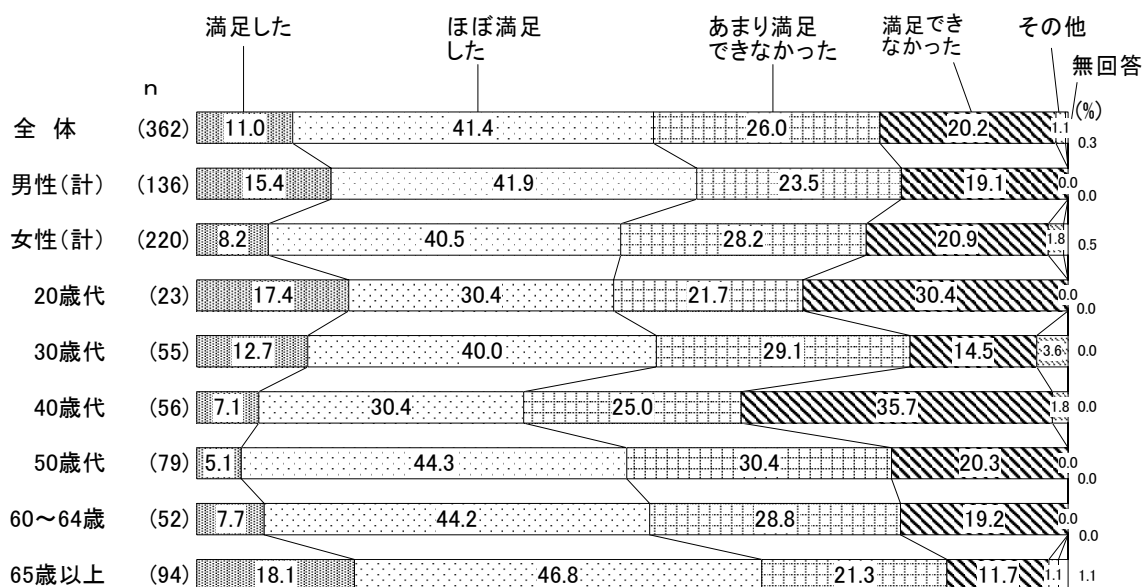
問34-1 市の相談窓口を利用してどう感じましたか。(○は1つだけ)

図6-9-1



市の相談窓口の利用で「ある」と答えた人(362人)に、市の相談窓口を利用してどう感じたか聞いたところ、「ほぼ満足した」が4割強(41.4%)と最も高く、「満足した」(11.0%)と合わせ『満足した』は5割強(52.4%)となっている。一方、「あまり満足できなかった」(26.0%)と「満足できなかった」(20.2%)を合わせた『満足できなかった』は4割台半ば(46.2%)となっている。(図6-9-1)

図6-9-2 相談窓口の満足度-性別・年齢別

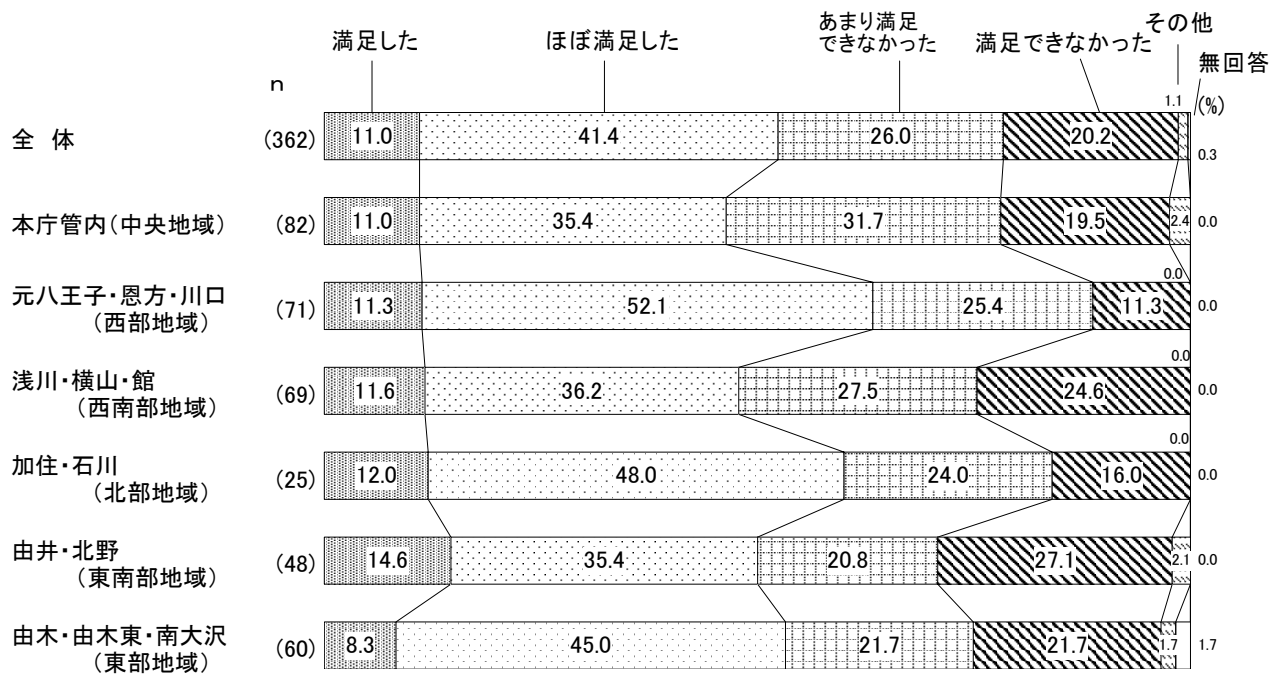


性別にみると、男性のほうが『満足した』が8.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、40歳代以降、年齢が高くなるほど『満足した』が増加する傾向がみられる。

(図6-9-2)

図6-9-3 相談窓口の満足度—居住地域別



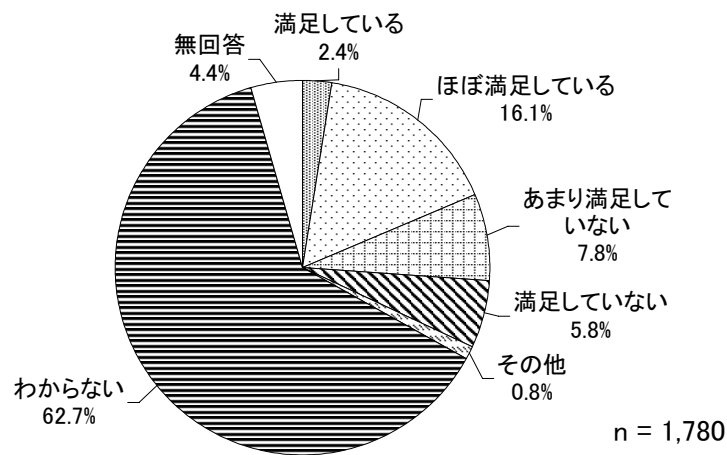
居住地域別にみると、『満足した』は元八王子・恩方・川口（西部地域）で6割強（63.4%）と最も高く、本庁管内（中央地域）で4割台半ば（46.4%）と最も低くなっている。（図6-9-3）

6-10 市の子育て支援施策の満足度

◇「ほぼ満足している」が1割台半ば

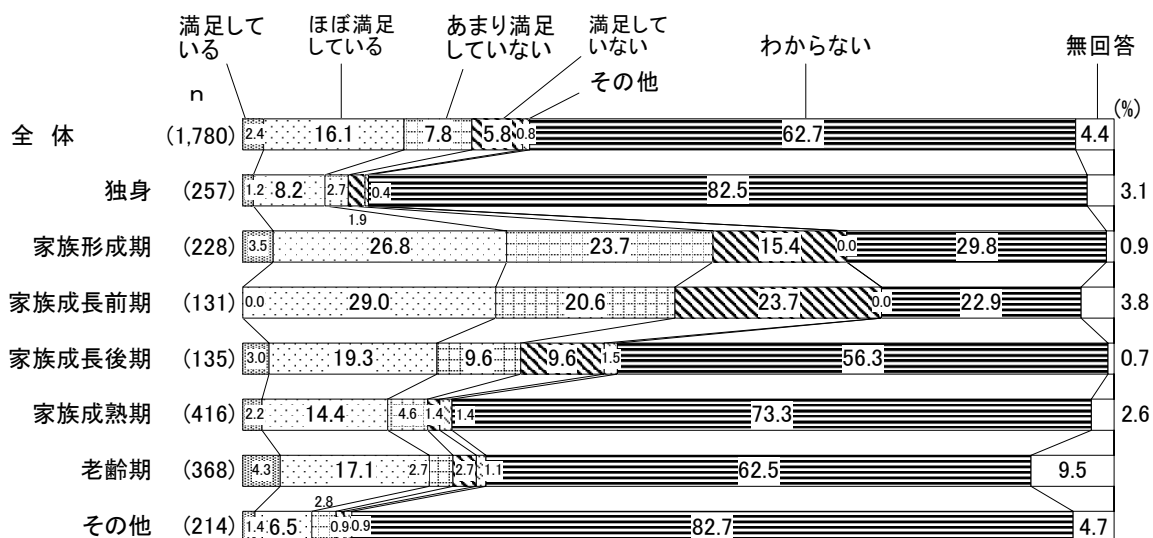
問35 あなたは、市が行っている様々な子育て支援策について、日頃どのように感じていますか。(〇は1つだけ)

図6-10-1



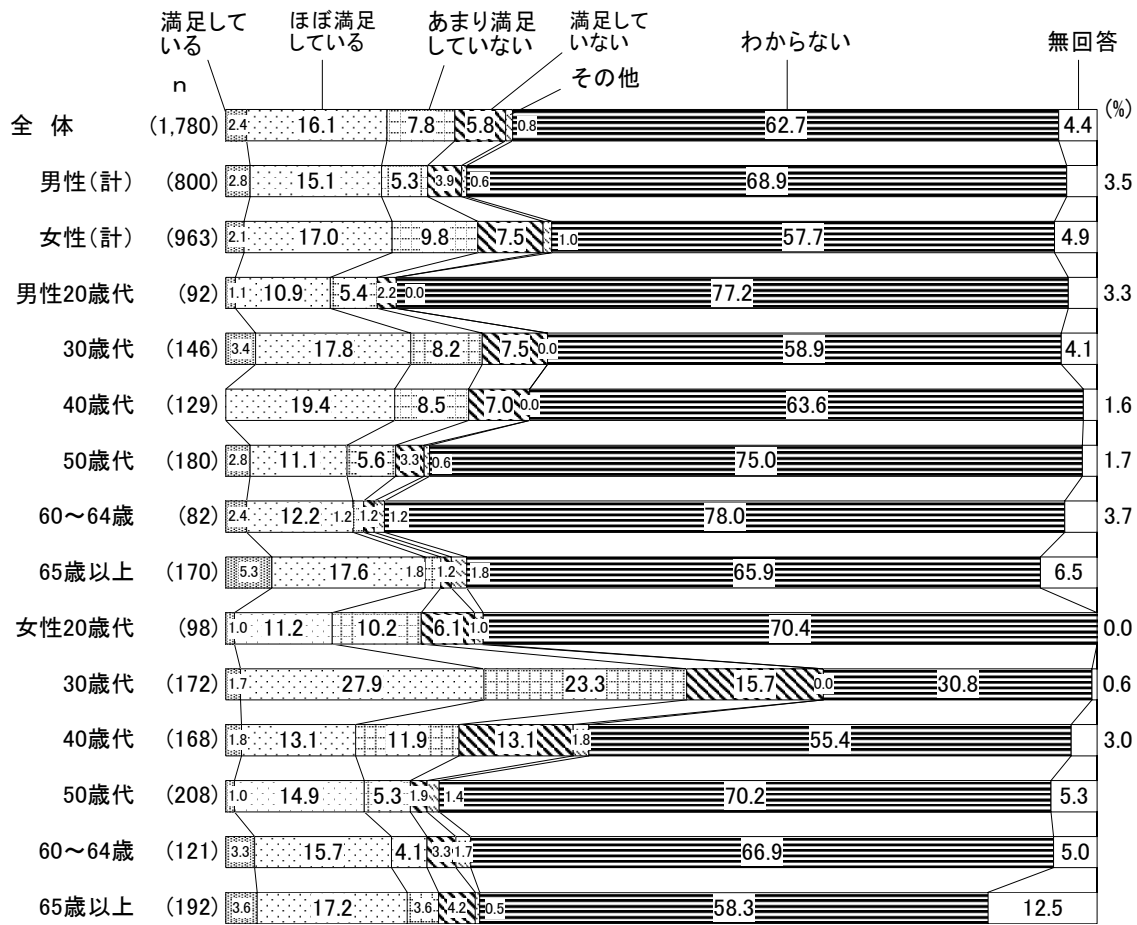
市の子育て支援施策についてどのように感じているかについて聞いたところ、「満足している」(2.4%)と「ほぼ満足している」(16.1%)を合わせた『満足』は2割弱(18.5%)となっている。一方、「あまり満足していない」(7.8%)と「満足していない」(5.8%)を合わせた『満足していない』(13.6%)は1割強となっている。(図6-10-1)

図6-10-2 市の子育て支援施策の満足度—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、家族形成期、家族成長前期では『満足していない』が『満足』を上回っている。それ以外のライフステージでは「わからない」が過半数を占めている。(図6-10-2)

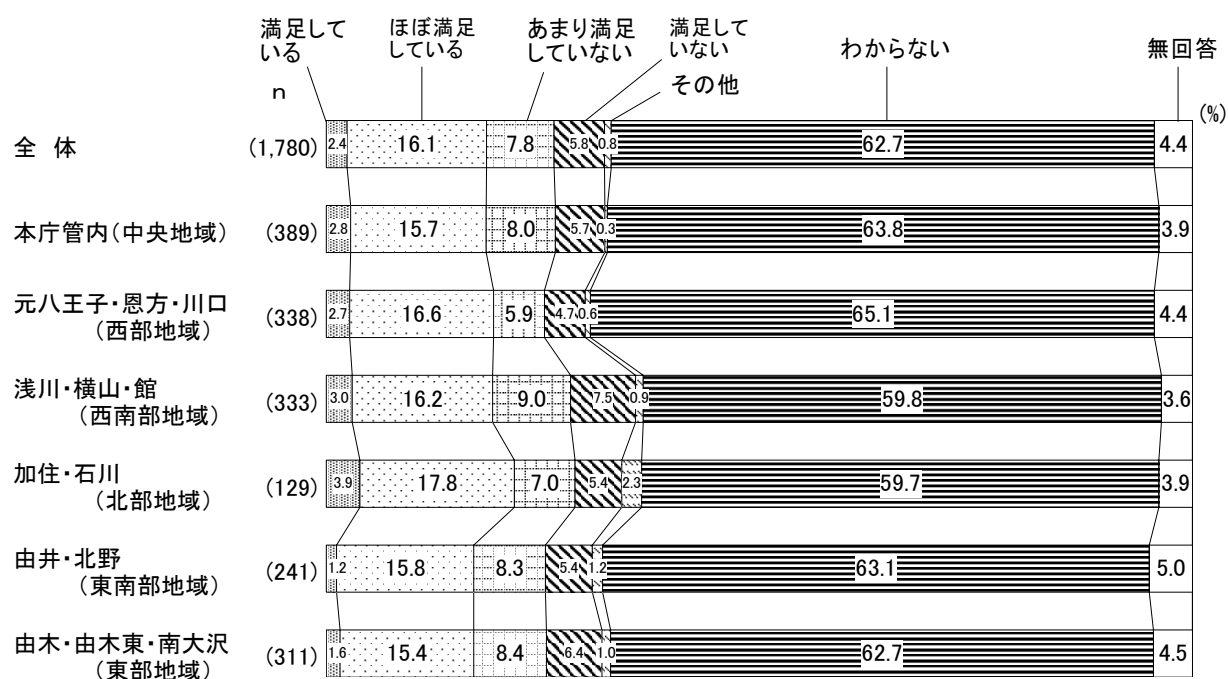
図6-10-3 市の子育て支援施策の満足度—性別・年齢別



性別にみると、女性のほうが『満足していない』が8.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『満足していない』は女性の30歳代（39.0%）と40歳代（25.0%）で高くなっている。（図6-10-3）

図6-10-4 市の子育て支援施策の満足度－居住地域別



居住地域別にみると、『満足』は加住・石川（北部地域）で2割強（21.7%）と最も高くなっている。

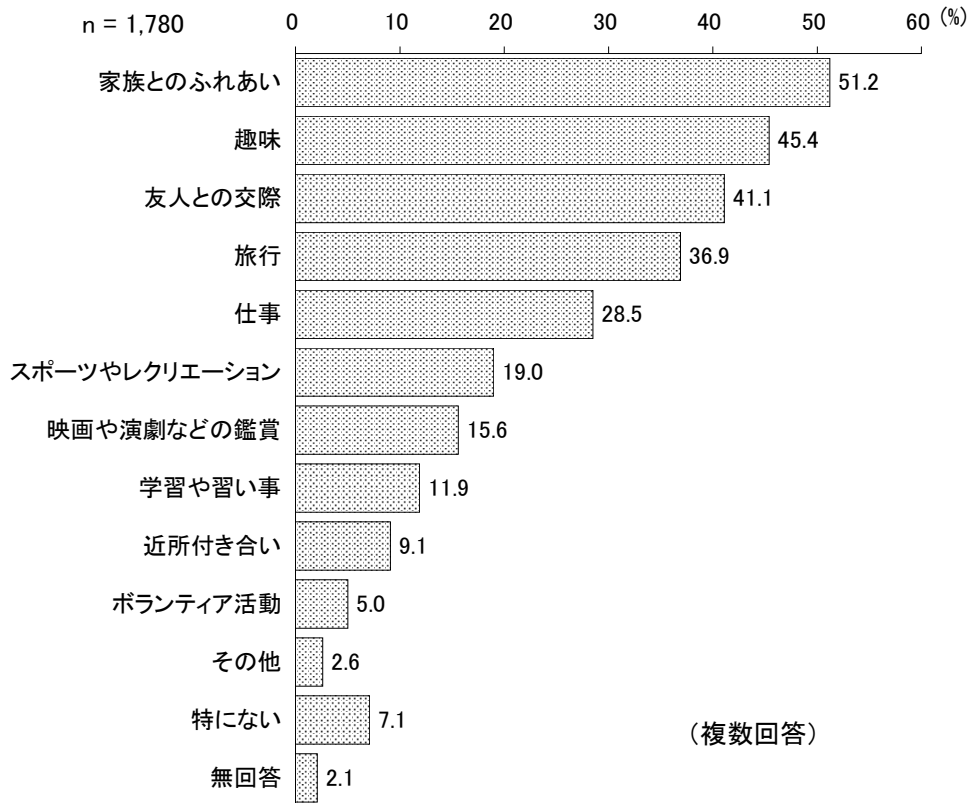
（図6-10-4）

6-11 現在の生きがい

◇「家族とのふれあい」が5割強

問36 あなたの現在の生きがいはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

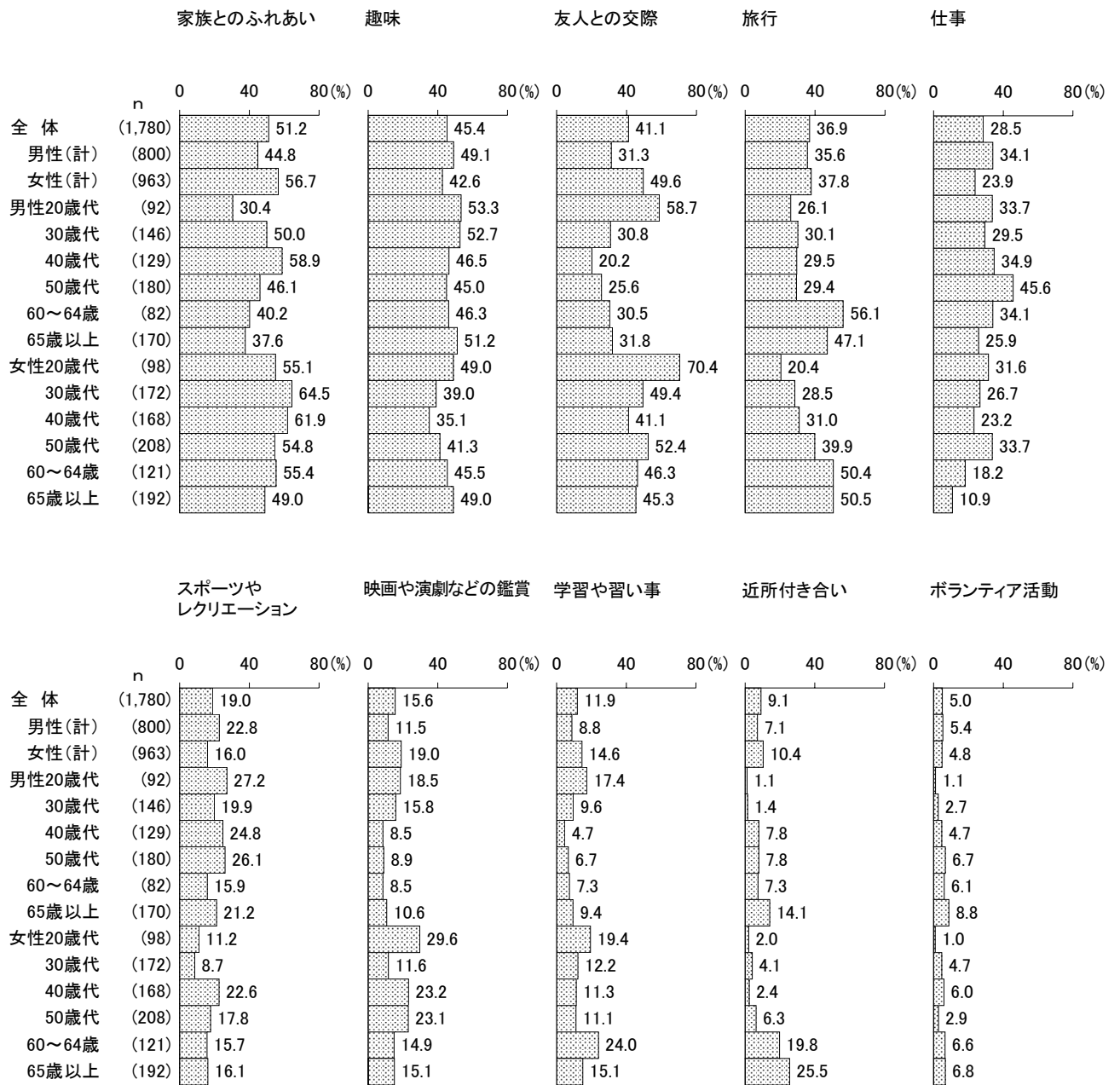
図6-11-1



現在の生きがいについて聞いたところ、「家族とのふれあい」が5割強 (51.2%) と最も高く、ついで「趣味」(45.4%)、友人との交際 (41.1%)、「旅行」(36.9%)、「仕事」(28.5%) の順で続いている。

(図6-11-1)

図6-11-2 現在の生きがい—性別・年齢別（上位10項目）



性別にみると、「家族とのふれあい」「友人との交際」は女性のほうが10ポイント以上高く、「仕事」は男性のほうが10.2ポイント高くなっている。

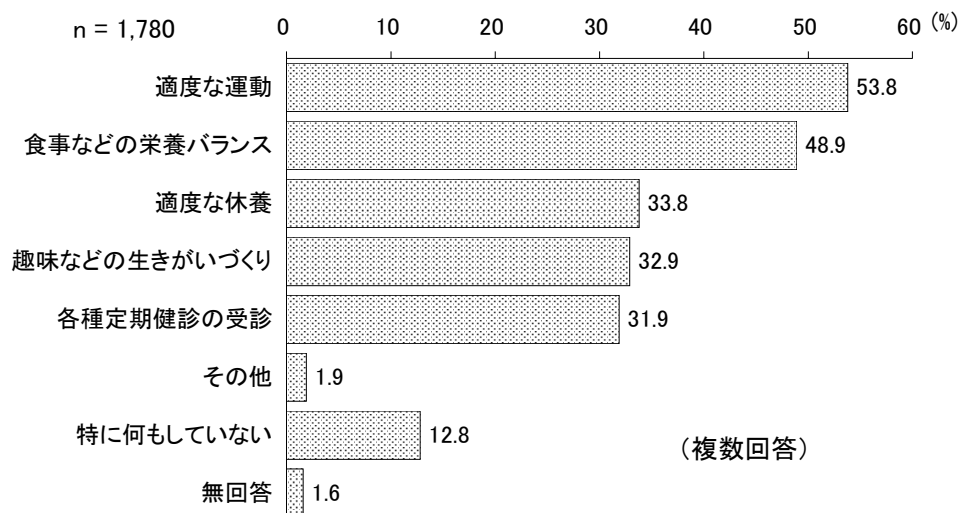
性・年齢別にみると、「家族とのふれあい」は、女性の30歳代・40歳代で6割以上と高く、「趣味」は男性の20歳代・30歳代・65歳以上で5割を超えて高い。「友人との交際」は男性と女性の20歳代でそれぞれ6割弱～7割と高く、「旅行」は男性60～64歳、女性60歳以上で5割を超え、「仕事」は男性50歳代で4割台半ばと最も高い。「スポーツやレクリエーション」は男性の20歳代・40歳代・50歳代で2割台半ばと高く、「映画や演劇などの鑑賞」は女性20歳代で約3割と最も高い。「学習や習い事」は女性の20歳代・60～64歳で2割前後と高く、「近所付き合い」は女性60歳以上で2割前後と高くなっている。(図6-11-2)

6-12 健康のために心がけていること

◇「適度な運動」「食事などの栄養バランス」がそれぞれ5割前後

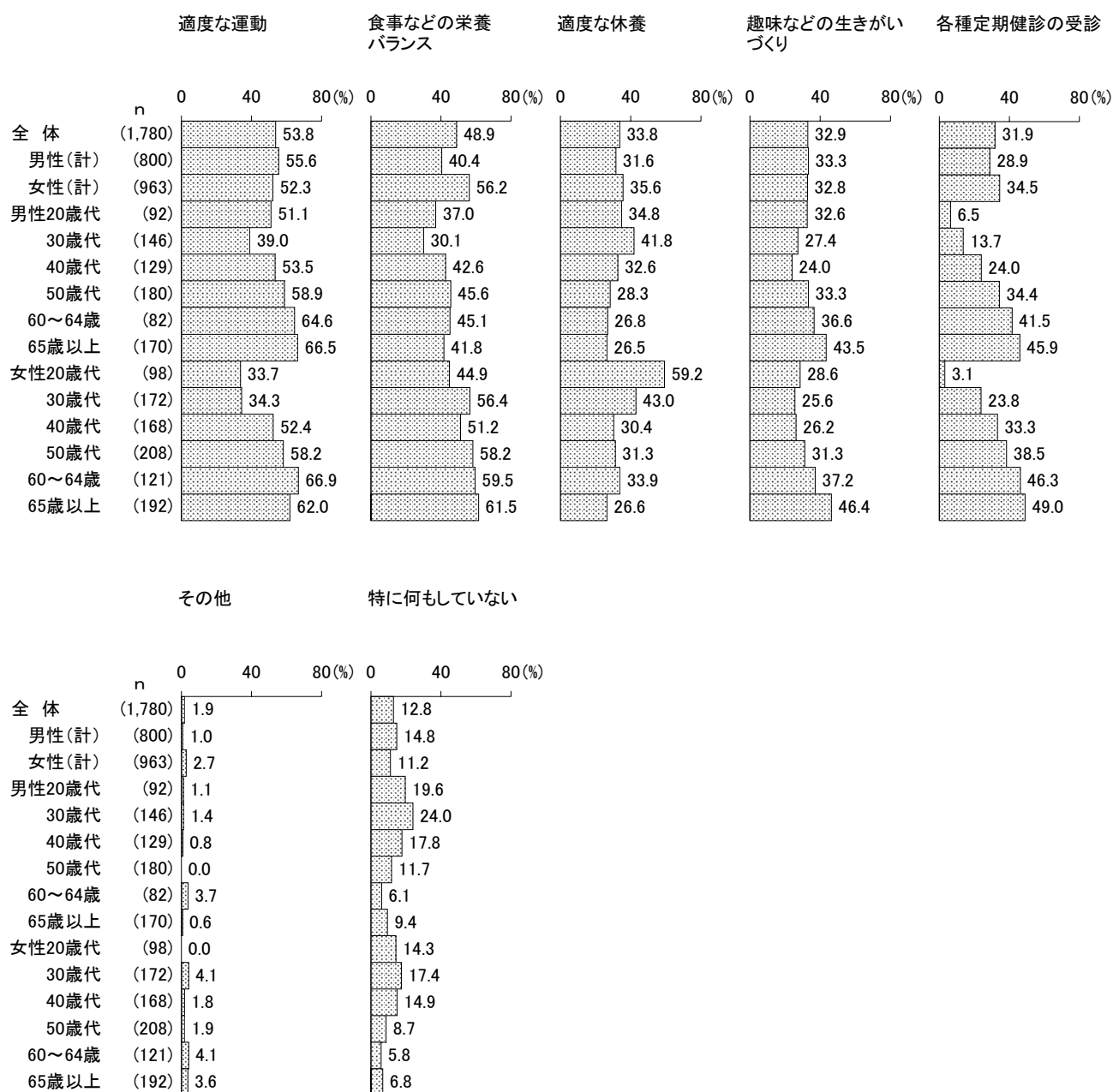
問37 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけて行動していることはどれですか。(〇はいくつでも)

図6-12-1



健康の維持・増進のために、自ら心がけて行動していることについて聞いたところ、「適度な運動」が5割強（53.8%）と最も高く、ついで「食事などの栄養バランス」（48.9%）、「適度な休養」（33.8%）の順で続いている。（図6-12-1）

図6-12-2 健康のために心がけていることー性別・年齢別

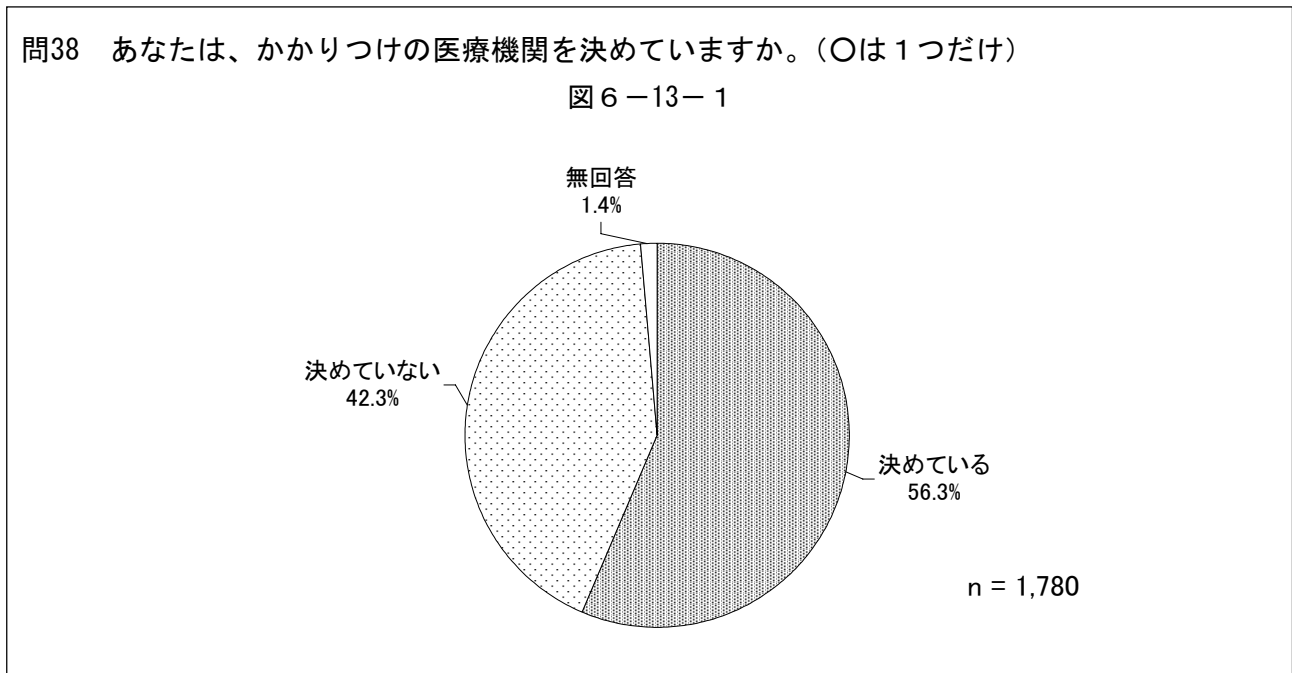


性別にみると、「食事などの栄養バランス」は女性のほうが15.8ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「適度な運動」は男女とも概ね年齢が高くなるほど割合が増加している。「食事などの栄養バランス」は、女性の50歳以上で6割前後と高くなっている。「適度な休養」は男女ともに年齢が低くなるほど割合が高い傾向にあり、特に女性20歳代では約6割(59.2%)を占める。「趣味などの生きがいづくり」「各種定期健診の受診」は男女とも概ね年齢が高くなるほど割合が増加する傾向がみられる。(図6-12-2)

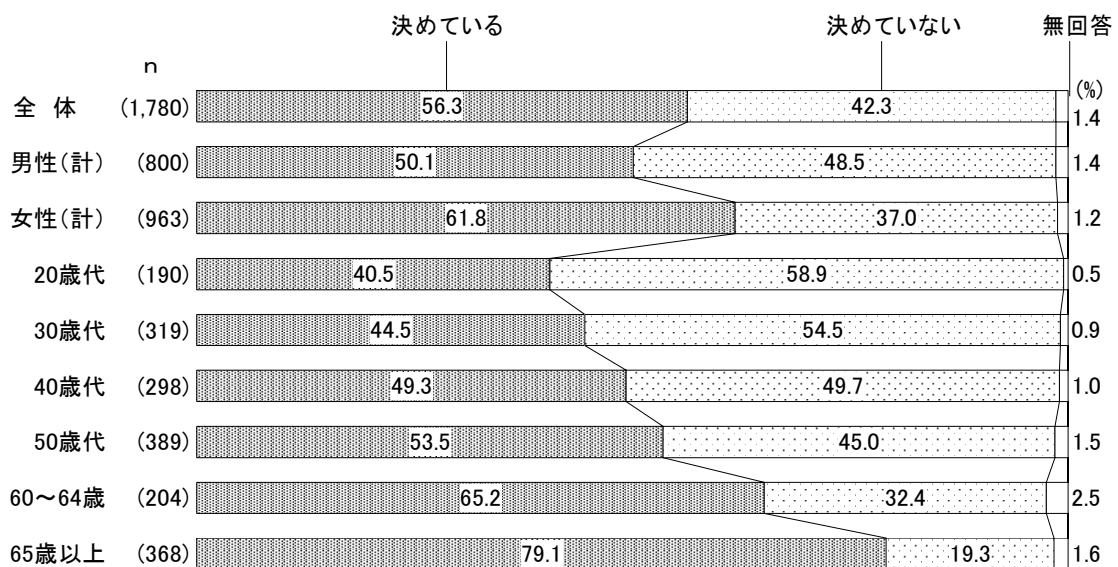
6-13 かかりつけの医療機関の有無

◇「決めている」人は5割台半ば



かかりつけの医療機関を決めているか聞いたところ、「決めている」が5割台半ば(56.3%)、「決めていない」が4割強(42.3%)となっている。(図6-13-1)

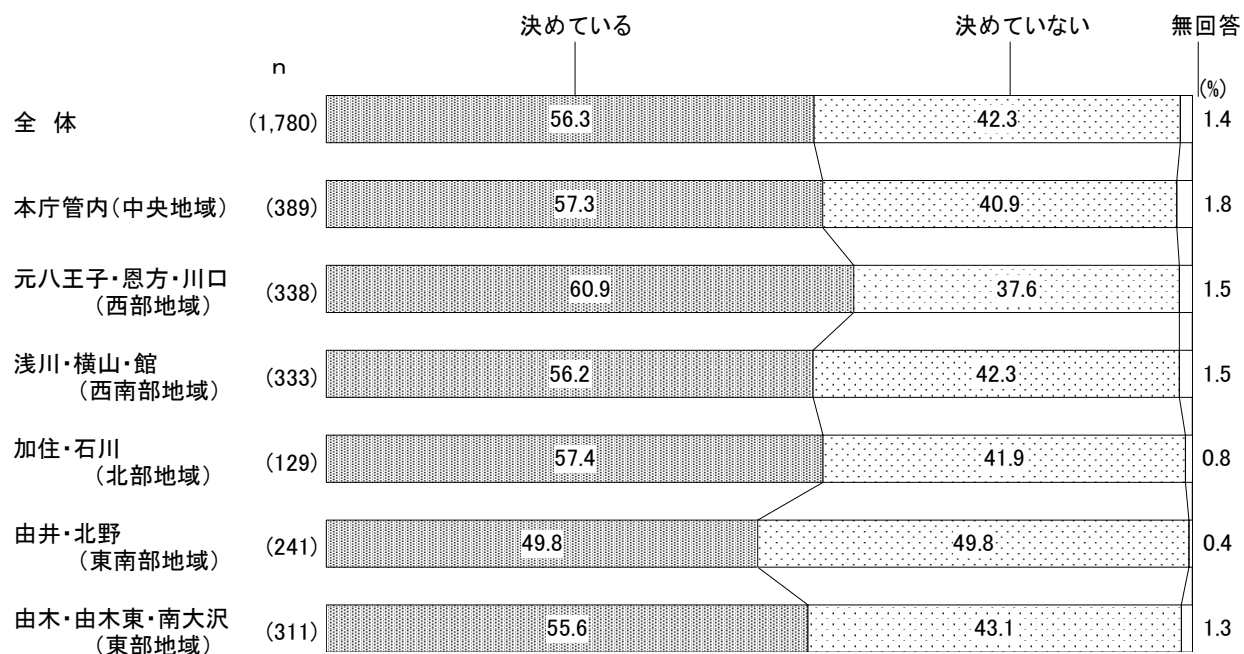
図6-13-2 かかりつけの医療機関の有無—性別・年齢別



性別にみると、女性のほうが「決めている」が10.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど「決めている」の割合が増加する傾向がみられ、65歳以上では約8割(79.1%)を占めている。(図6-13-2)

図6-13-3 かかりつけの医療機関の有無－居住地域別



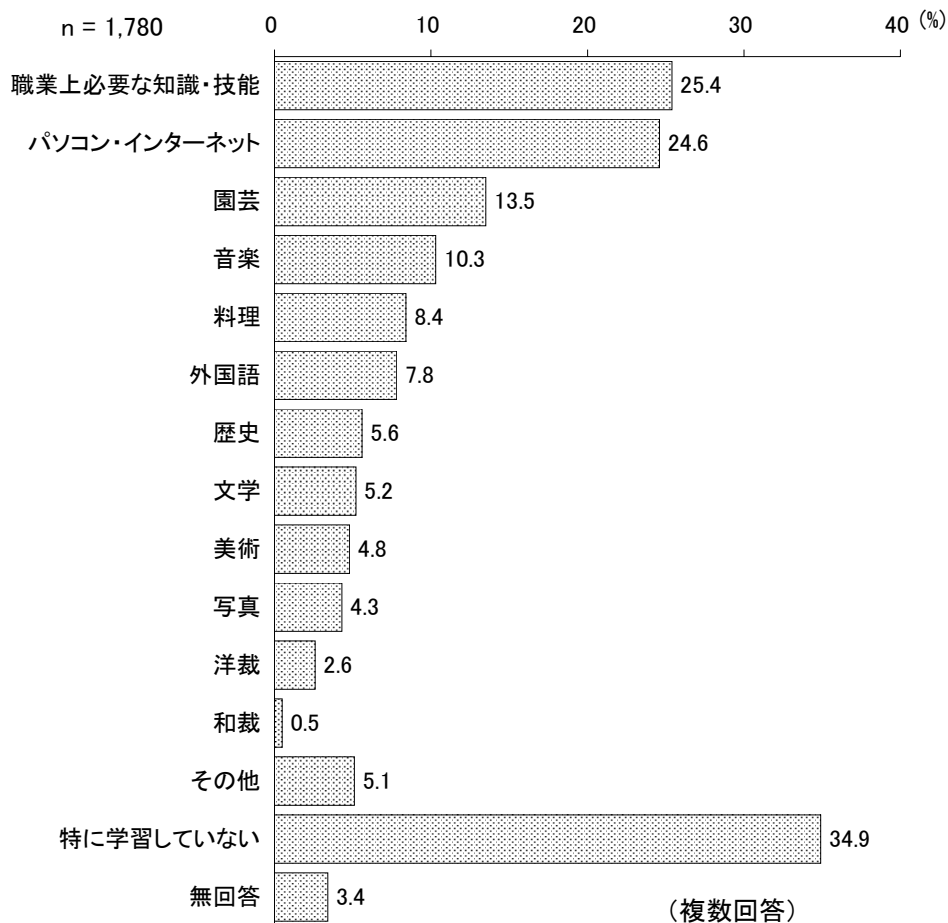
居住地域別にみると、「決めている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で約6割（60.9%）と最も高く、由井・北野（東南部地域）で約5割（49.8%）と最も低くなっている。（図6-13-3）

6-14 この1年間に取り組んだ学習活動

◇「職業上必要な知識・技能」と「パソコン・インターネット」の二項目が2割台半ば

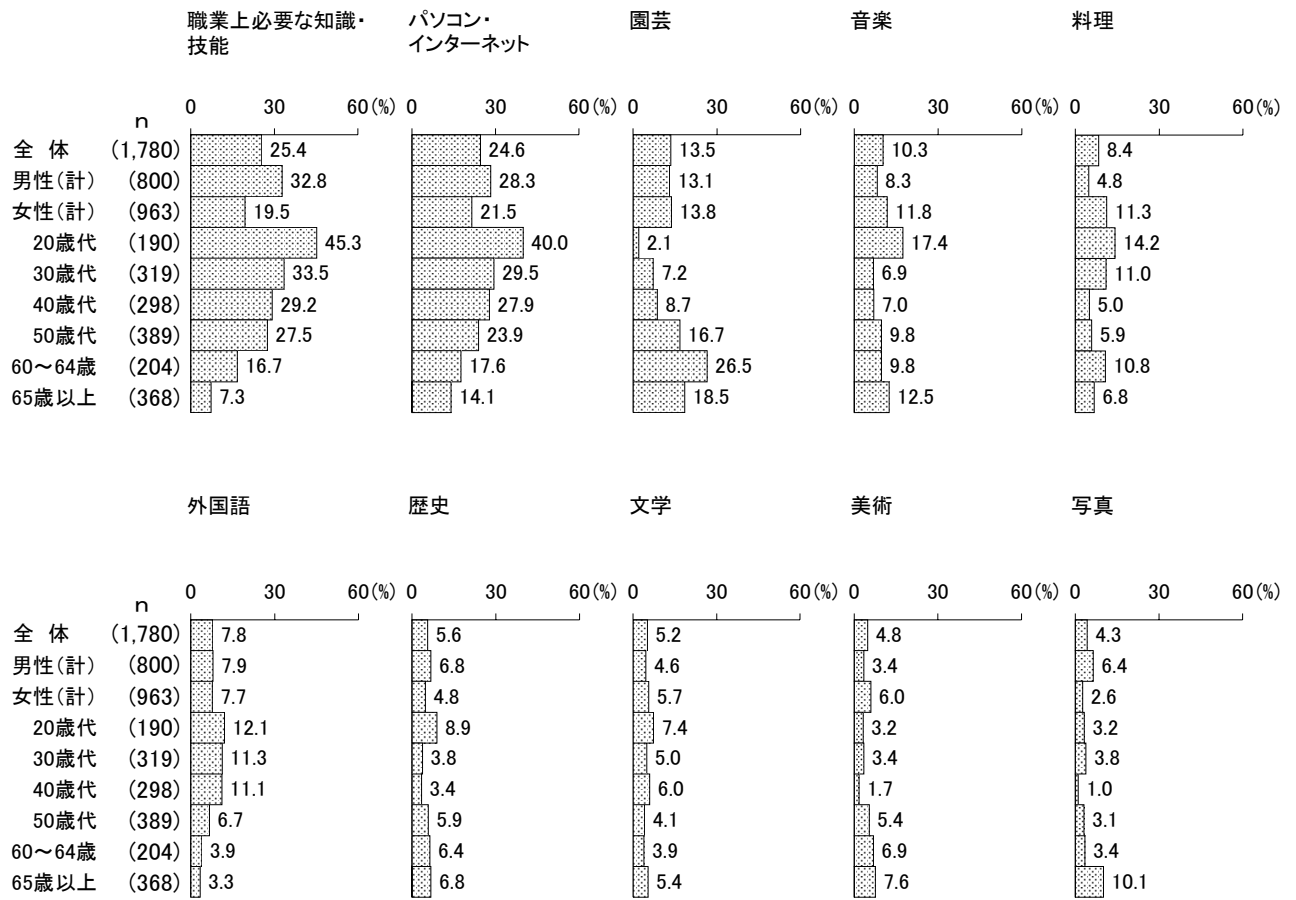
問39 あなたがこの1年間に取り組んだ学習活動はどれですか。(〇はいくつでも)

図6-14-1



この1年間に取り組んだ学習活動について聞いたところ、「職業上必要な知識・技能」が2割台半ば(25.4%)と最も高く、ついで「パソコン・インターネット」(24.6%)、「園芸」(13.5%)、「音楽」(10.3%)、「料理」(8.4%)と続いている。(図6-14-1)

図6-14-2 この1年間に取り組んだ学習活動—性別・年齢別（上位10項目）

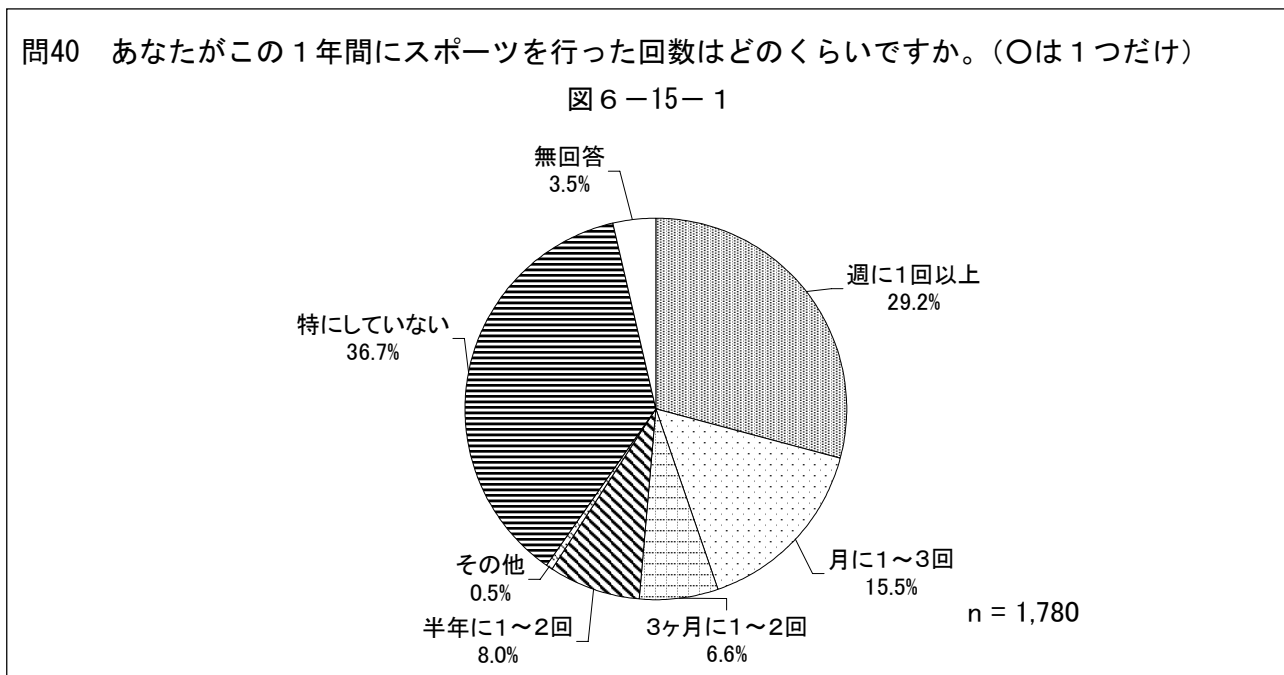


性別にみると、男性のほうが「職業上必要な知識・技能」で13.3ポイント、「パソコン・インターネット」で6.8ポイント高く、女性のほうが「料理」で6.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「職業上必要な知識・技能」、「パソコン・インターネット」、「料理」、「外国語」は年齢が低くなるほど割合が増加する傾向にあり、20歳代で「職業上必要な知識・技能」は4割台半ば（45.3%）、「パソコン・インターネット」は4割を占める。「園芸」は年齢が高くなるほど割合が増加する傾向がみられる。（図6-14-2）

6-15 この1年間に行ったスポーツの頻度

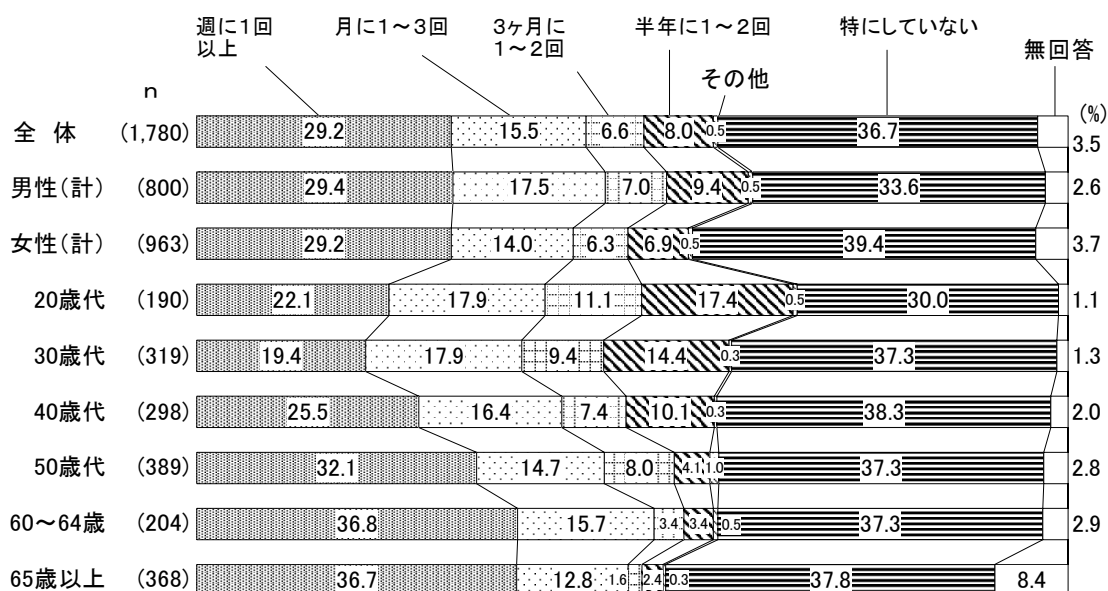
◇「週に1回以上」が約3割、「特にしていない」が3割台半ば



この1年間にスポーツを行った回数について聞いたところ、「週に1回以上」が約3割(29.2%)、「月に1~3回」が1割台半ば(15.5%)、「3ヶ月に1~2回」(6.6%)、「半年に1~2回」(8.0%)が1割未満となっている。一方で「特にしていない」は3割台半ば(36.7%)となっている。

(図6-15-1)

図6-15-2 この1年間に行ったスポーツの頻度—性別・年齢別



性別にみると、女性のほうが「特にしていない」が5.8ポイント高くなっている。

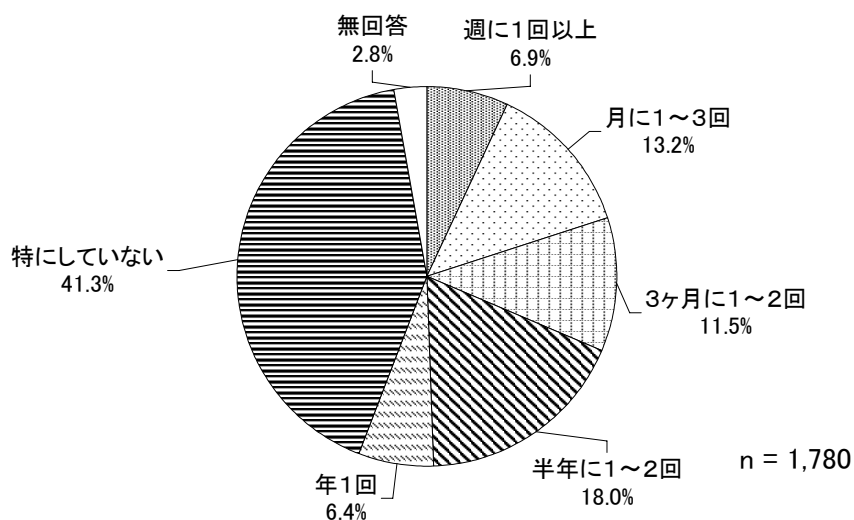
年齢別にみると、30歳代以降、年齢が高くなるほど「週に1回以上」の割合が増加する傾向がみられる。(図6-15-2)

6-16 この1年間の芸術・文化活動の頻度

◇「半年に1～2回」が2割弱、「特にしていない」が4割強

問41 あなたは、この1年間にどのくらいの頻度で芸術・文化活動に参加しましたか。(鑑(観)賞も含みます)(○は1つだけ)

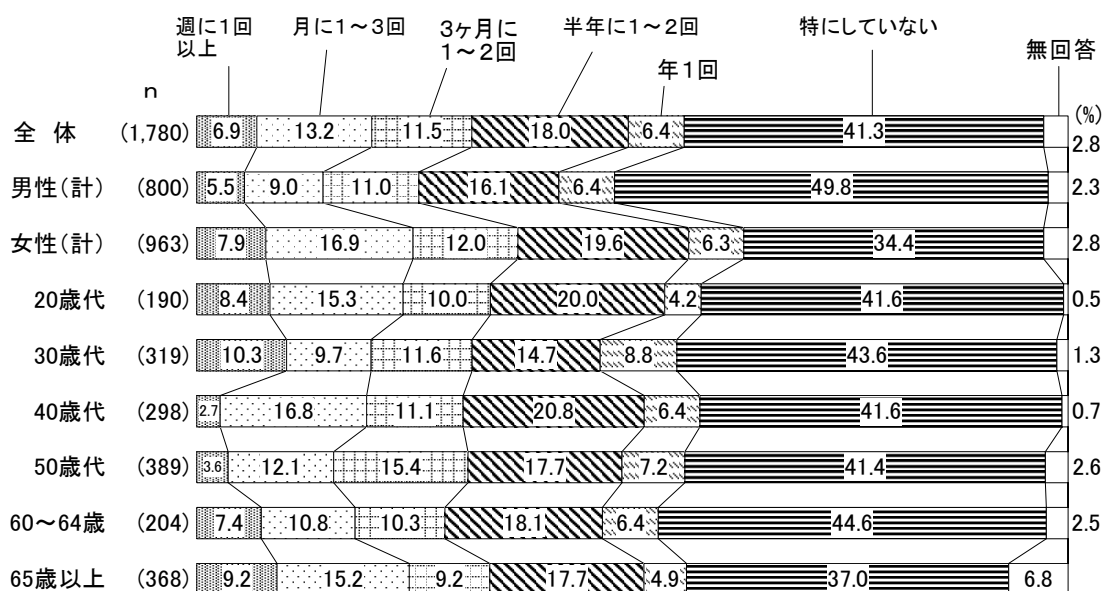
図6-16-1



この1年間の芸術・文化活動の参加頻度について聞いたところ、「週に1回以上」が1割未満(6.9%)、「月に1～3回」が1割強(13.2%)、「3ヶ月に1～2回」が1割強(11.5%)、「半年に1～2回」が2割弱(18.0%)となっている。一方で「特にしていない」は4割強(41.3%)となっている。

(図6-16-1)

図6-16-2 この1年間の芸術・文化活動の頻度—性別・年齢別

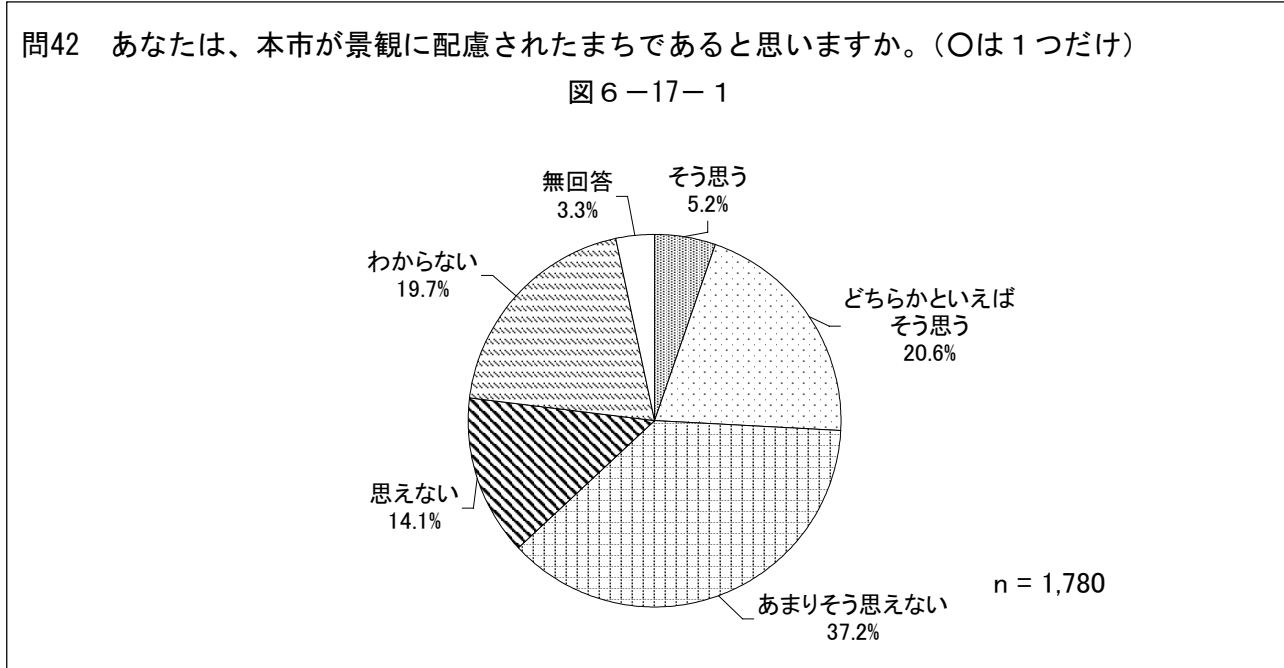


性別にみると、男性のほうが「特にしていない」が15.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「週に1回以上」と「月に1～3回」の合計は20歳代と65歳以上で割合が高く、50歳代で最も低くなっている。(図6-16-2)

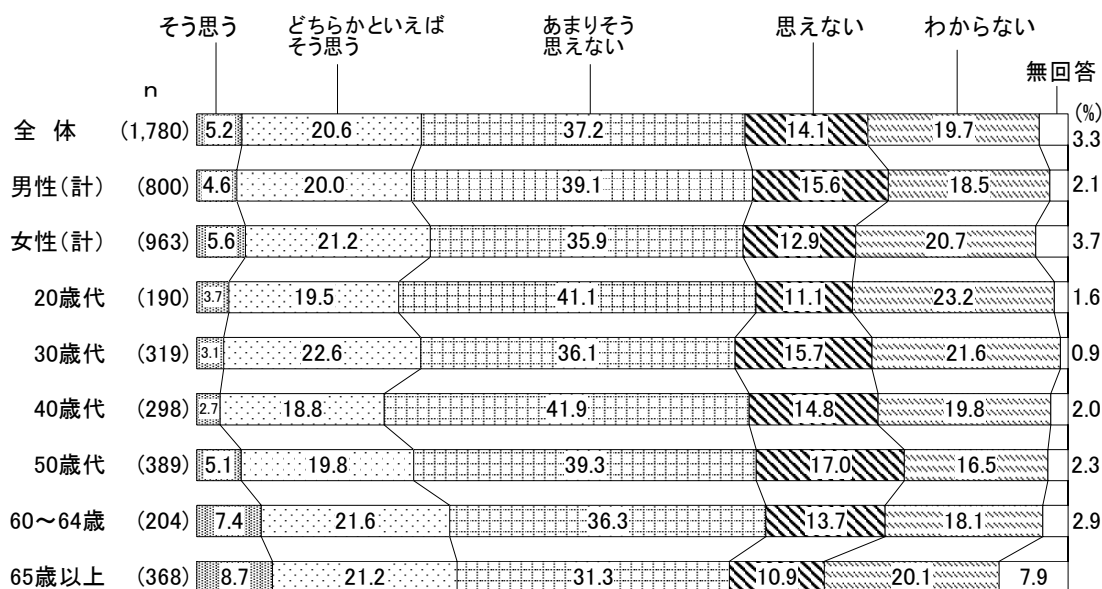
6-17 市は景観に配慮されたまちであるか

◇『思えない』が5割強



市が景観に配慮されたまちであるかについて聞いたところ、「あまりそう思えない」が4割弱(37.2%)と最も高く、「思えない」(14.1%)と合わせた『思えない』は5割強(51.3%)となっている。一方、「そう思う」(5.2%)と「どちらかといえばそう思う」(20.6%)を合わせた『そう思う』は2割台半ば(25.8%)となっている。(図6-17-1)

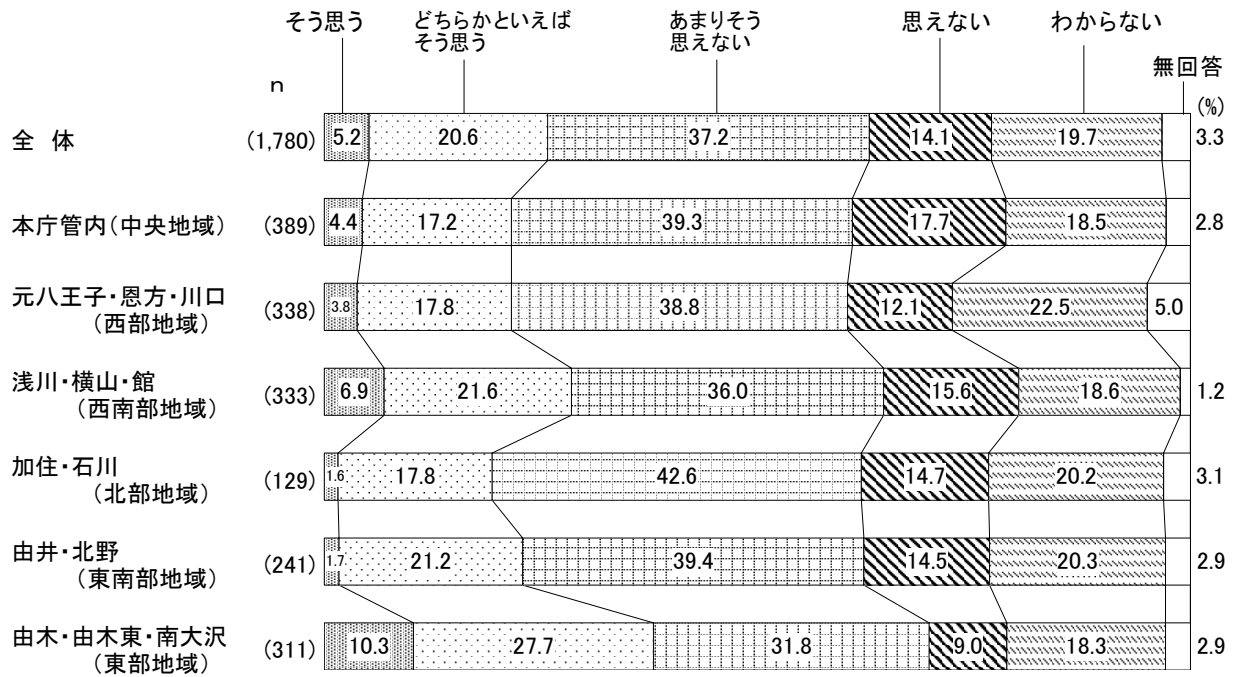
図6-17-2 市は景観に配慮されたまちであるか—性別・年齢別



性別にみると、男性のほうが『思えない』が5.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、40歳代・50歳代で『思えない』が5割台半ばと高く、60歳以上で『そう思う』が約3割と比較的高くなっている。(図6-17-2)

図6-17-3 市は景観に配慮されたまちであるか—居住地域別



居住地域別にみると、『思えない』は本庁管内（中央地域）と加住・石川（北部地域）で6割弱と高く、『そう思う』は由木・由木東・南大沢（東部地域）で4割弱と特に高くなっている。

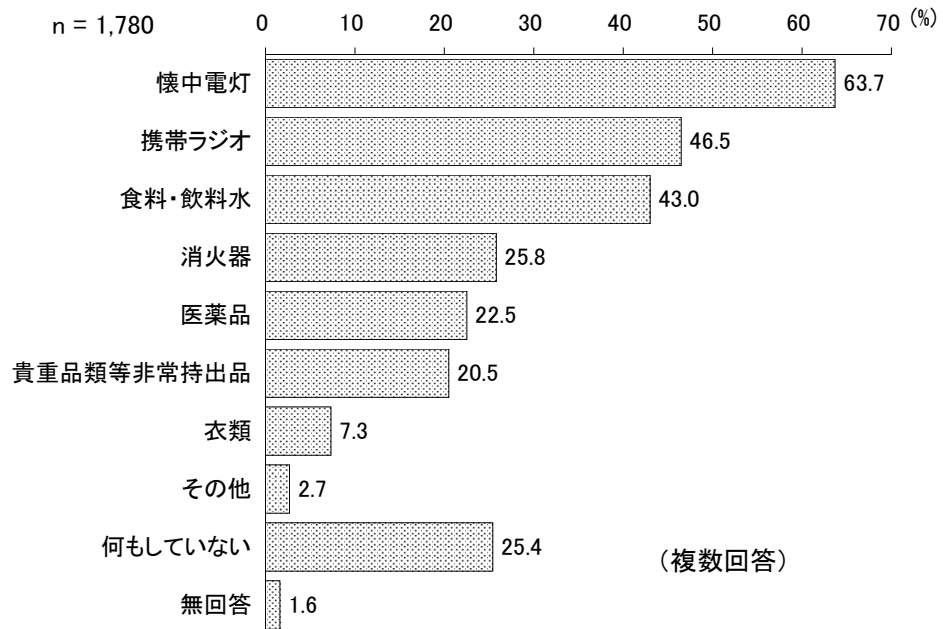
(図6-17-3)

6-18 災害に対する準備

◇「懐中電灯」が6割強と突出

問43 あなたの家庭では、大地震等の災害に備えどのようなものを準備していますか。(〇はいくつでも)

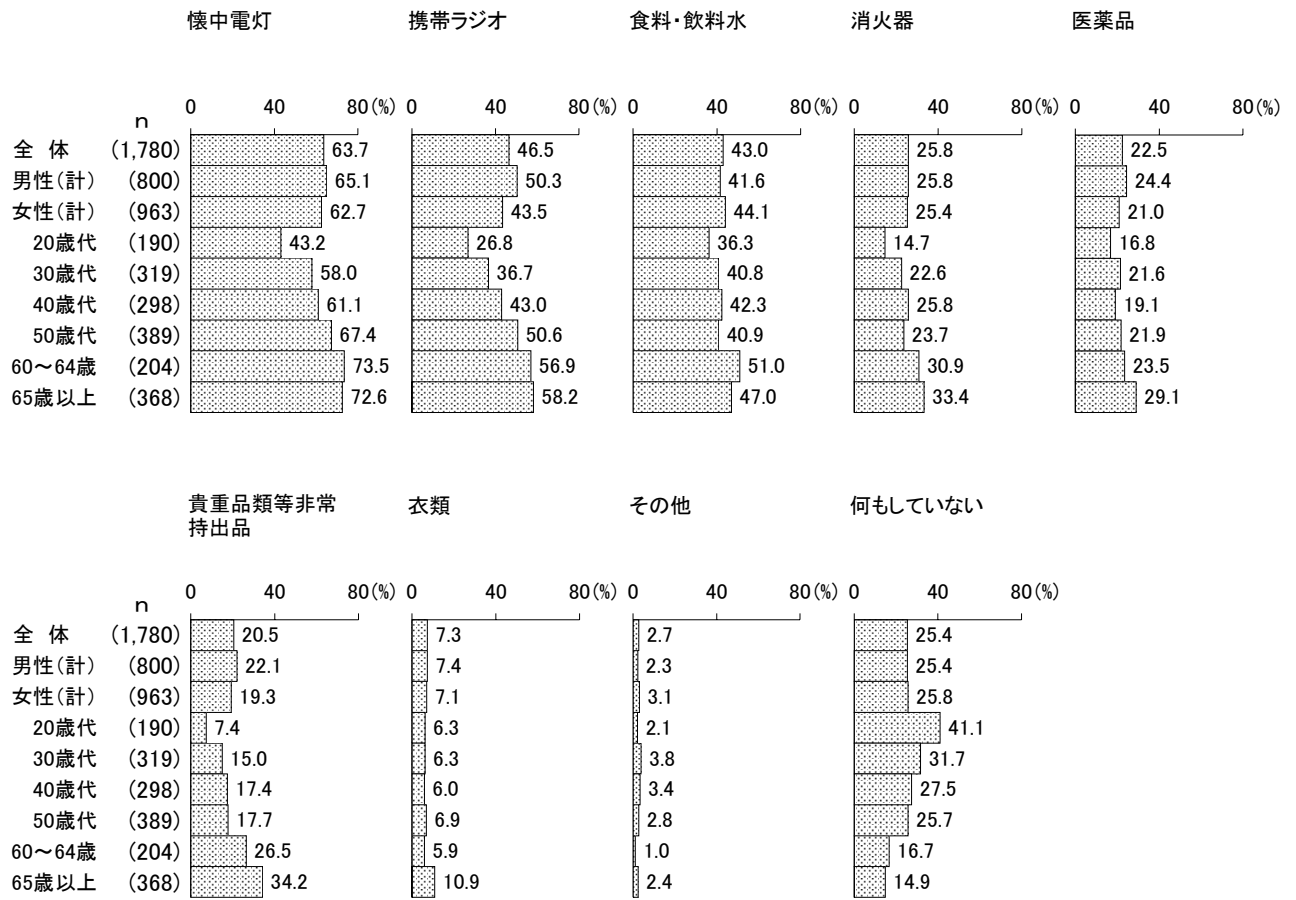
図6-18-1



大地震等の災害に備えた準備についてきいたところ、「懐中電灯」が6割強(63.7%)と最も高く、ついで「携帯ラジオ」(46.5%)、「食料・飲料水」(43.0%)、「消火器」(25.8%)の順が続いている。

(図6-18-1)

図6-18-2 災害に対する準備—性別・年齢別

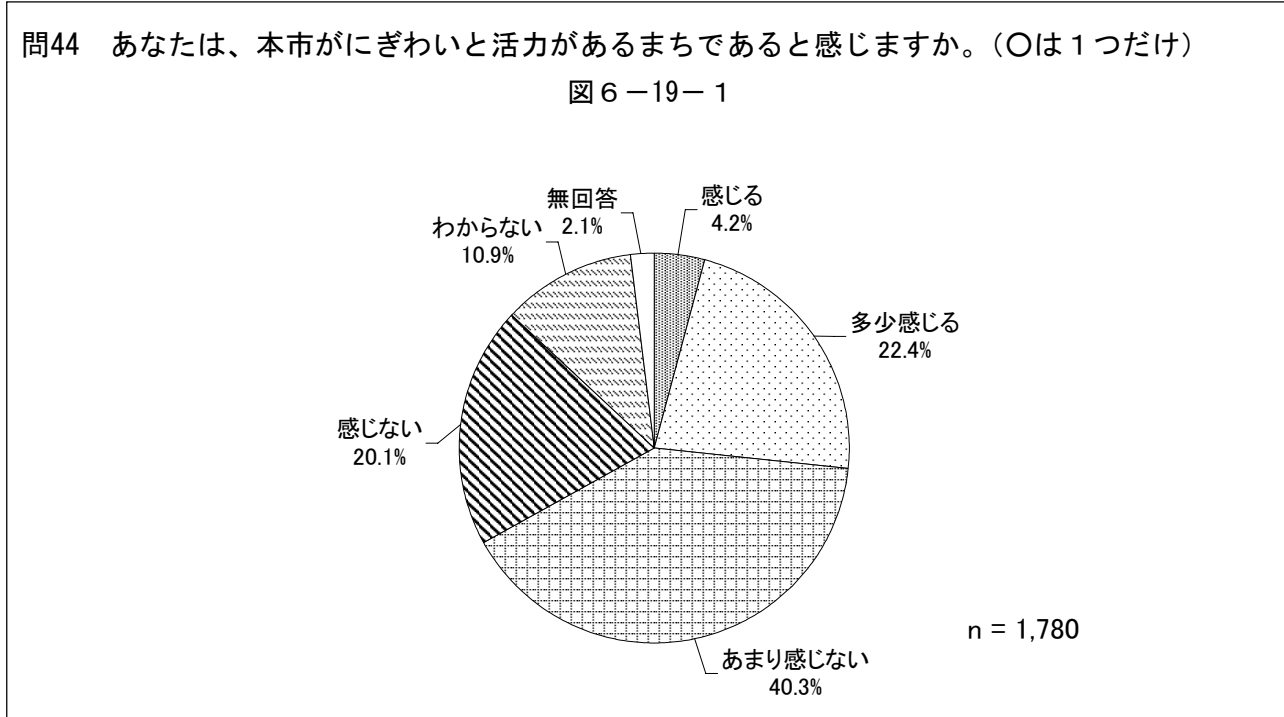


性別にみると、「携帯ラジオ」は男性のほうが6.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「懐中電灯」、「携帯ラジオ」、「消火器」、「医薬品」、「貴重品類等非常持出品」は、年齢が高くなるほど割合が増加する傾向にある。「何もしていない」は年齢が低くなるほど割合が増加する傾向にあり、20歳代は4割強（41.1%）と高くなっている。（図6-18-2）

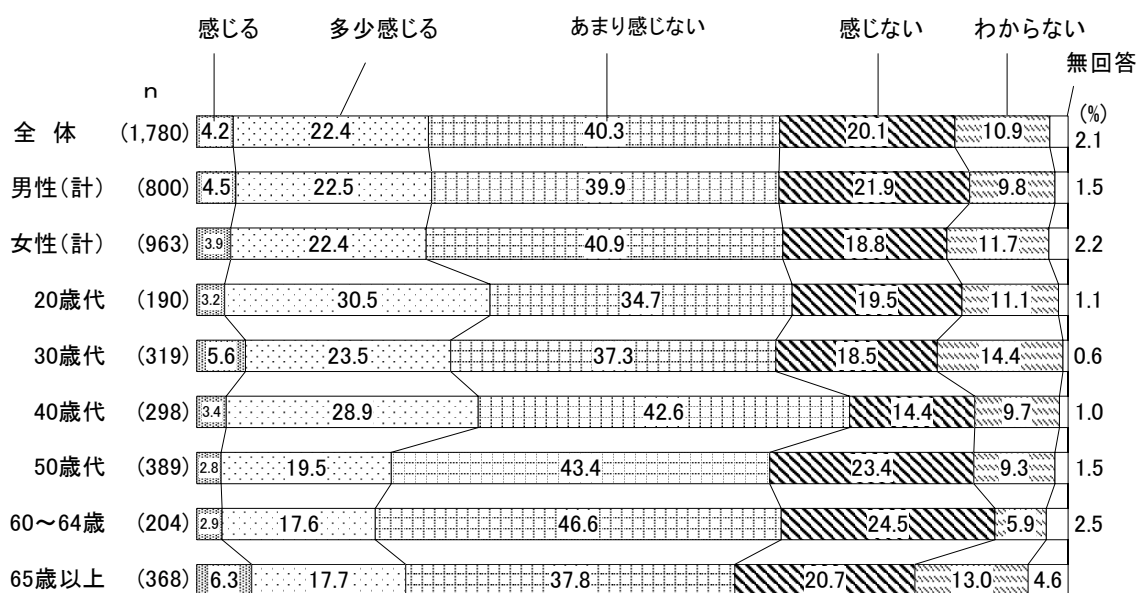
6-19 市のにぎわいと活力の有無

◇『感じない』が6割



八王子市がにぎわいと活力があるまちであると感じるか聞いたところ、「あまり感じない」が約4割(40.3%)と最も高く、「感じない」(20.1%)と合わせた『感じない』は約6割(60.4%)である。「感じる」(4.2%)と「多少感じる」(22.4%)を合わせた『感じる』は2割台半ば(26.6%)となっている。(図6-19-1)

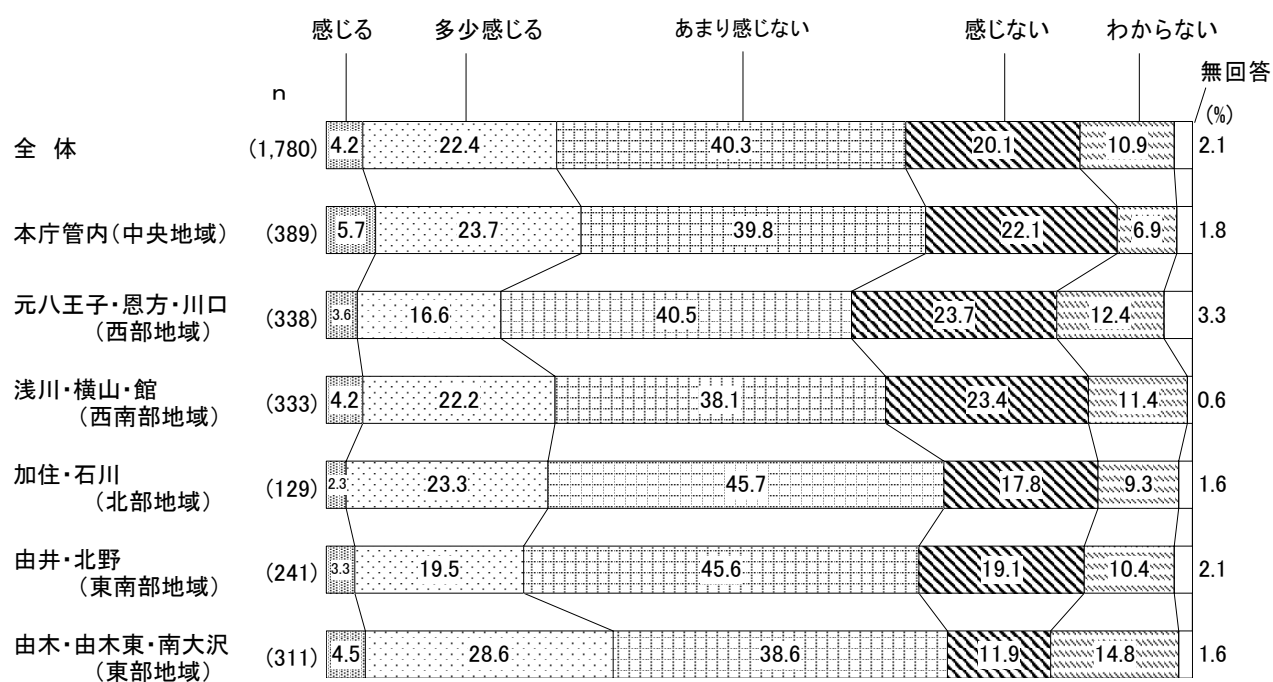
図6-19-2 市のにぎわいと活力の有無一性別・年齢別



性別には大きな差はみられない。

年齢別にみると、『感じる』は20歳代~40歳代で3割前後と高くなっている。(図6-19-2)

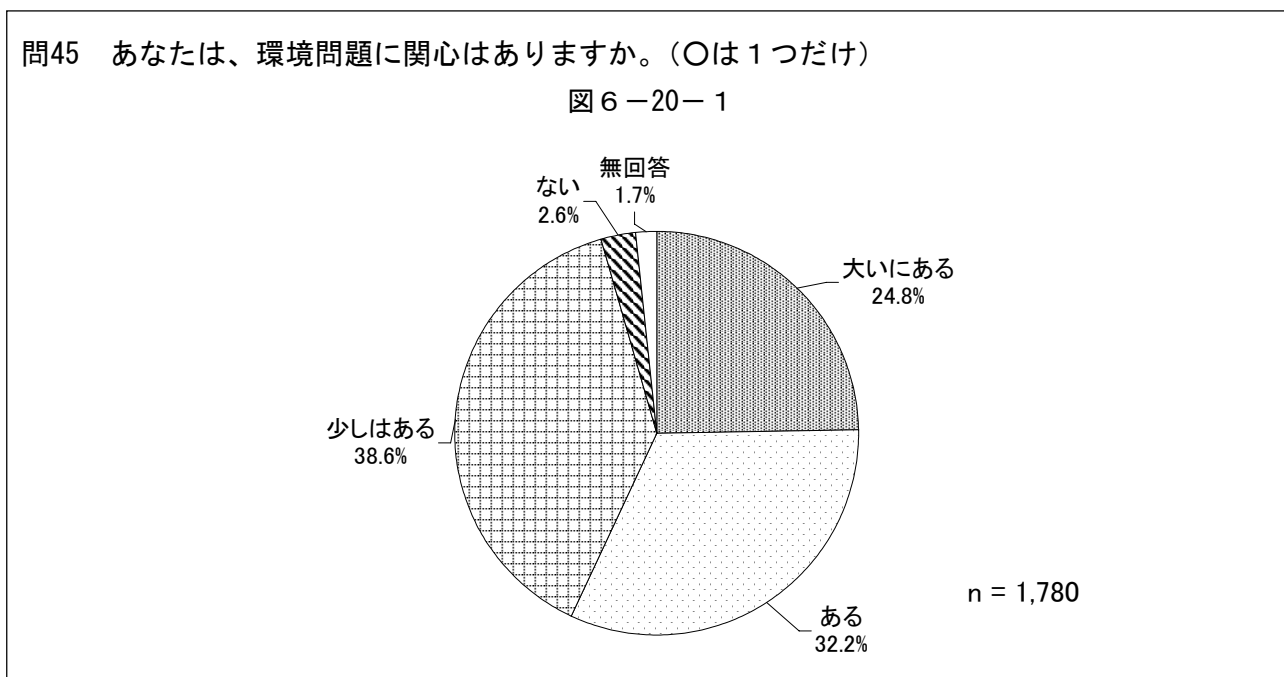
図6-19-3 市のにぎわいと活力の有無—居住地域別



居住地域別にみると、『感じる』は由木・由木東・南大沢（東部地域）、本庁管内（中央地域）で3割前後と高く、元八王子・恩方・川口（西部地域）で約2割と低くなっている。（図6-19-3）

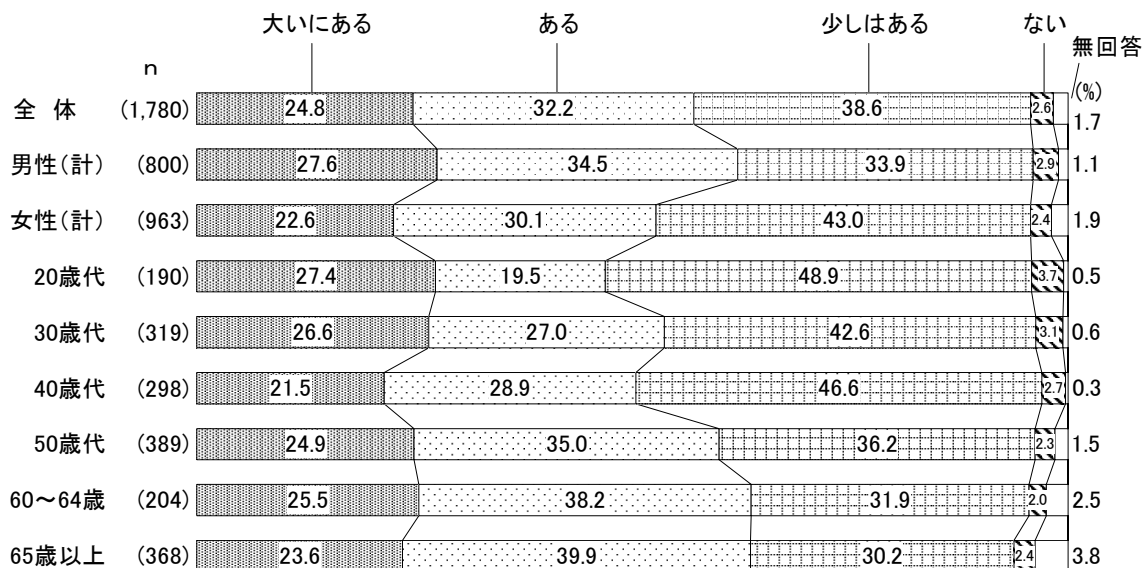
6-20 環境問題への関心度

◇環境問題に関心が『ある』人は9割を超える



環境問題に関心があるかどうかについて聞いたところ、「大いにある」が2割台半ば(24.8%)、「ある」(32.2%)と「少しはある」(38.6%)が3割台となっていて、三項目をあわせた『ある』は9割半ば(95.6%)と高くなっている。一方で「ない」はわずか2.6%となっている。(図6-20-1)

図6-20-2 環境問題への関心度—性別・年齢別

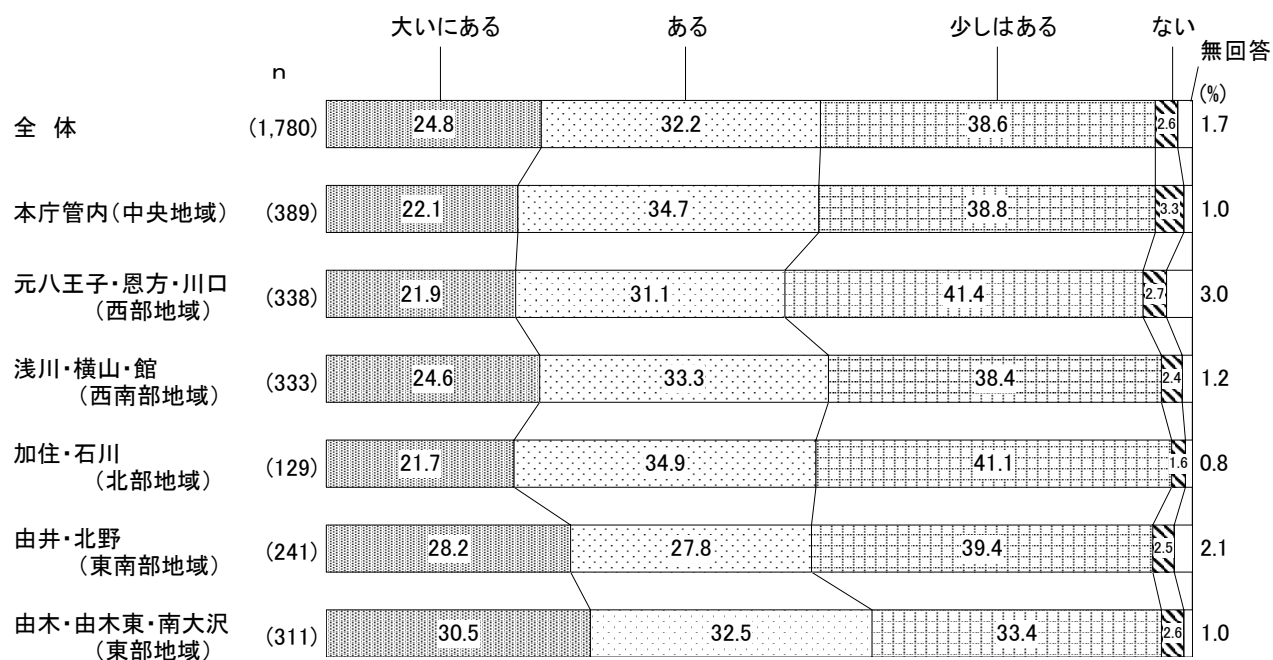


性別にみると、男性のほうが「大いにある」と「ある」の計が9.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「大いにある」と「ある」の計は50歳代以上で6割前後と高くなっている。

(図6-20-2)

図6-20-3 環境問題への関心度—居住地域別



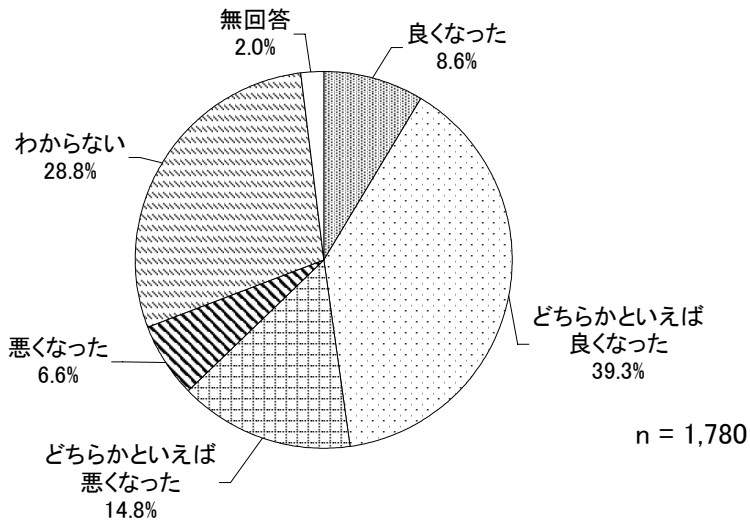
居住地域別にみると、「大いにある」は由井・北野（東南部地域）と由木・由木東・南大沢（東部地域）で3割前後と高くなっている。（図6-20-3）

6-21 市の現在の環境

◇『良くなった』が5割弱

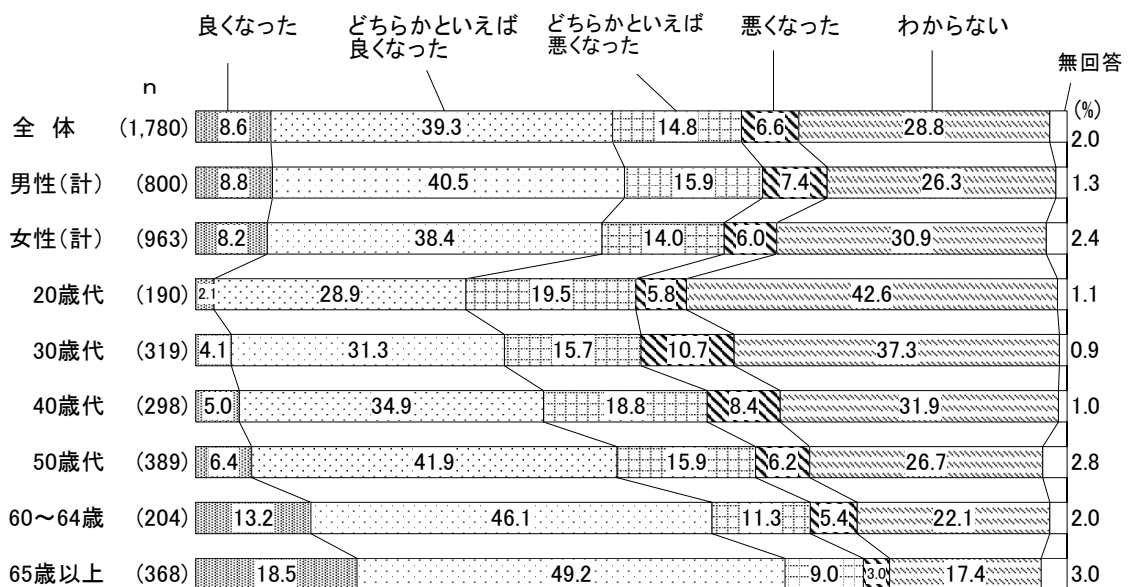
問46 あなたは、本市の環境（水、緑、ごみ、大気など）が以前と比べどうなったと感じていますか。（○は1つだけ）

図6-21-1



市の環境が以前と比べてどうなったと感じるか聞いたところ、「良くなった」(8.6%)と「どちらかといえば良くなった」(39.3%)を合わせた『良くなった』は5割弱(47.9%)となっている。一方、「どちらかといえば悪くなった」(14.8%)と「悪くなった」(6.6%)を合わせた『悪くなった』は2割強(21.4%)となっている。(図6-21-1)

図6-21-2 市の現在の環境—性別・年齢別

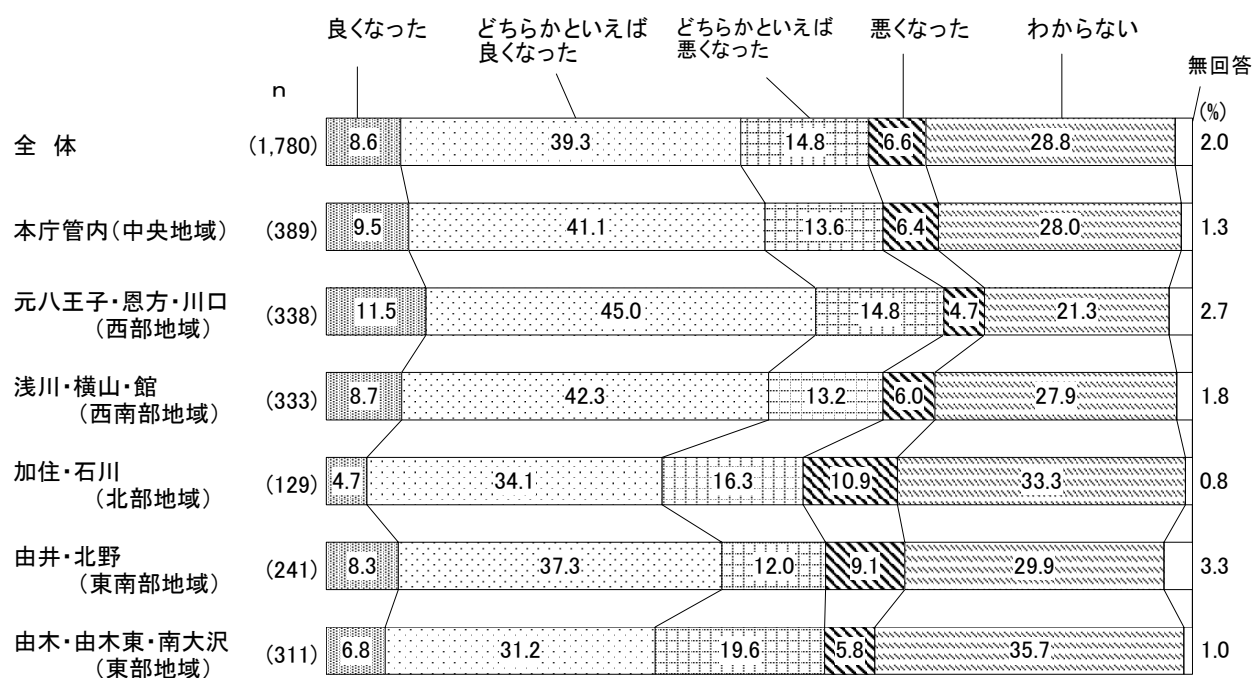


性別には大きな差はみられない。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど『良くなった』の割合が増加する傾向がみられる。

(図6-21-2)

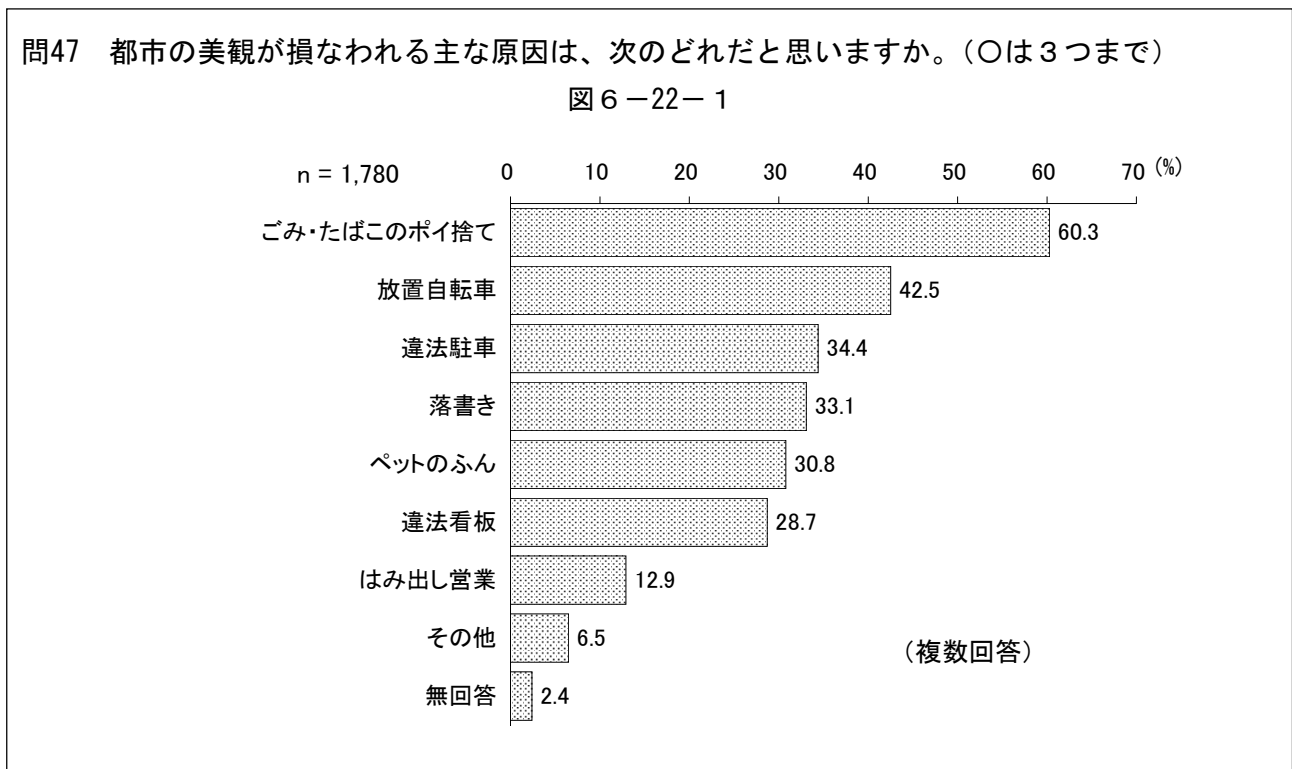
図6-21-3 市の現在の環境—居住地域別



居住地域別にみると、『良くなった』は元八王子・恩方・川口（西部地域）で5割台半ば（56.5%）と最も高く、加住・石川（北部地域）、由木・由木東・南大沢（東部地域）で4割弱と低くなっている。（図6-21-3）

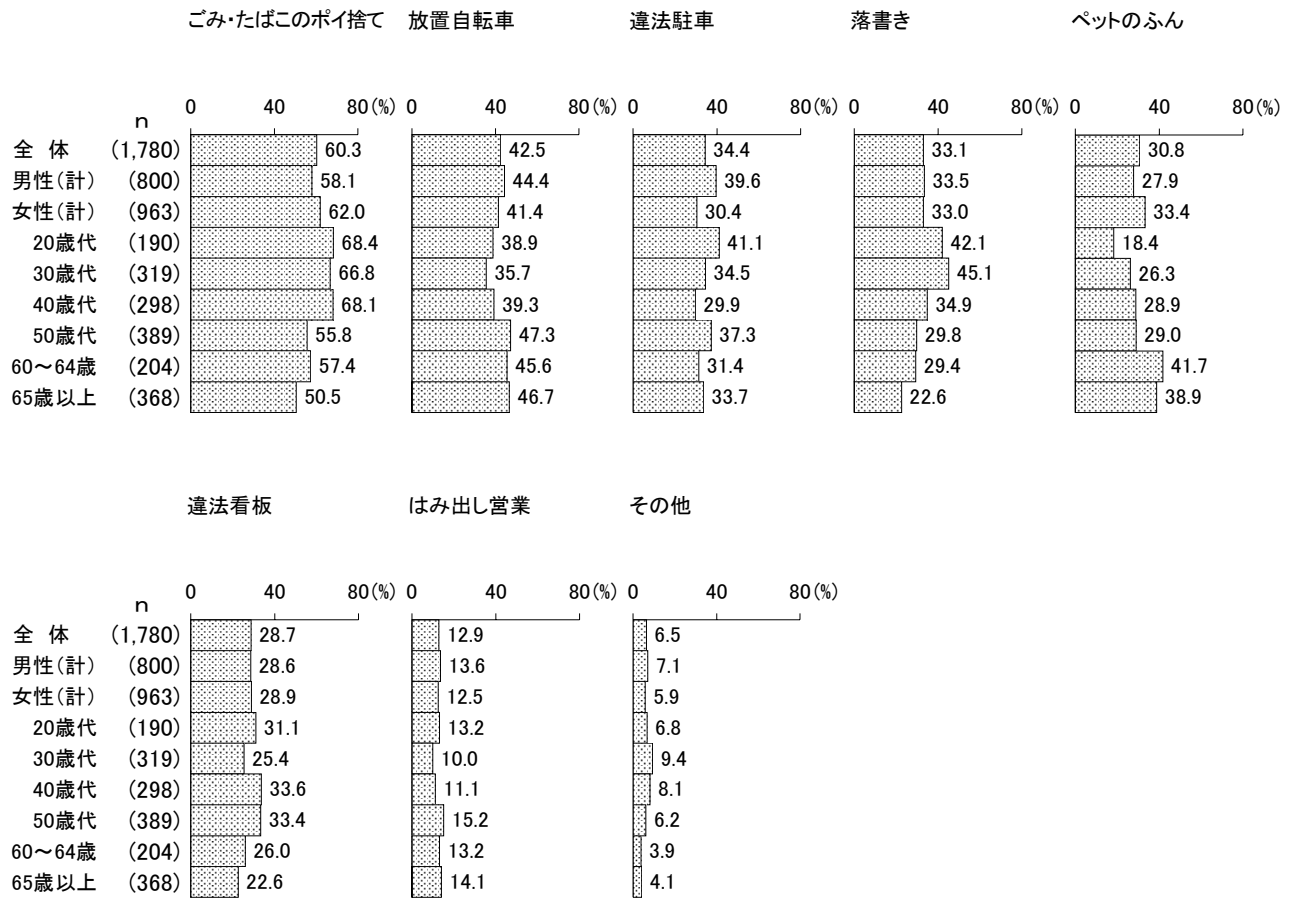
6-22 都市の美観が損なわれる原因

◇「ごみ・たばこのポイ捨て」が6割と突出



都市の美観が損なわれる主な原因について聞いたところ、「ごみ・たばこのポイ捨て」が約6割(60.3%)と最も高く、ついで「放置自転車」(42.5%)、「違法駐車」(34.4%)、「落書き」(33.1%)の順で続いている。(図6-22-1)

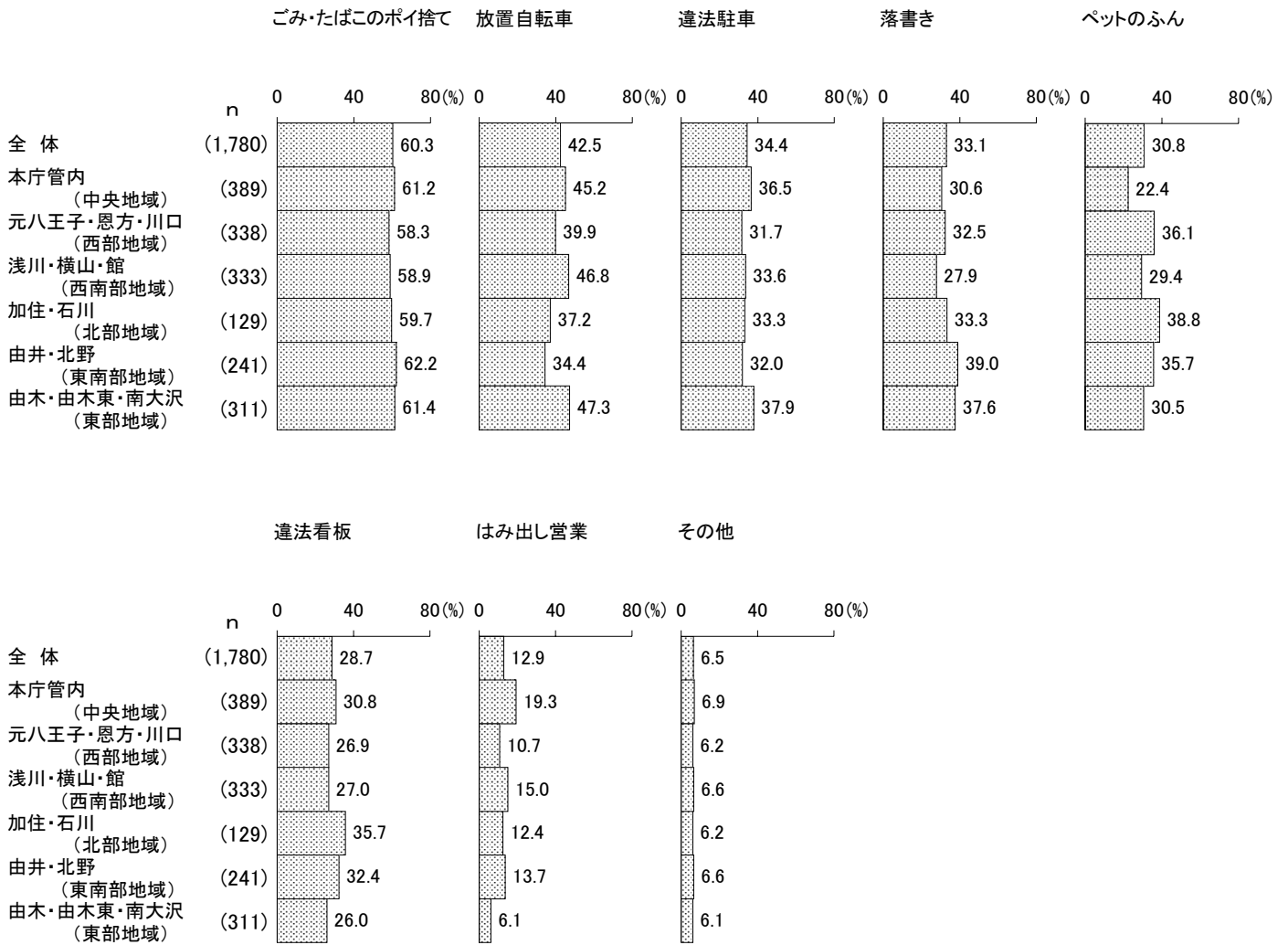
図6-22-2 都市の美観が損なわれる原因—性別・年齢別



性別にみると、「違法駐車」は男性のほうが9.2ポイント高く、「ペットのふん」は女性のほうが5.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「ごみ・たばこのポイ捨て」は20歳代～40歳代で6割台と高く、「落書き」は20歳代・30歳代で4割台と高い。「ペットのふん」は年齢が高くなるほど割合が増加する傾向にあり、60歳以上では4割前後を占めている。(図6-22-2)

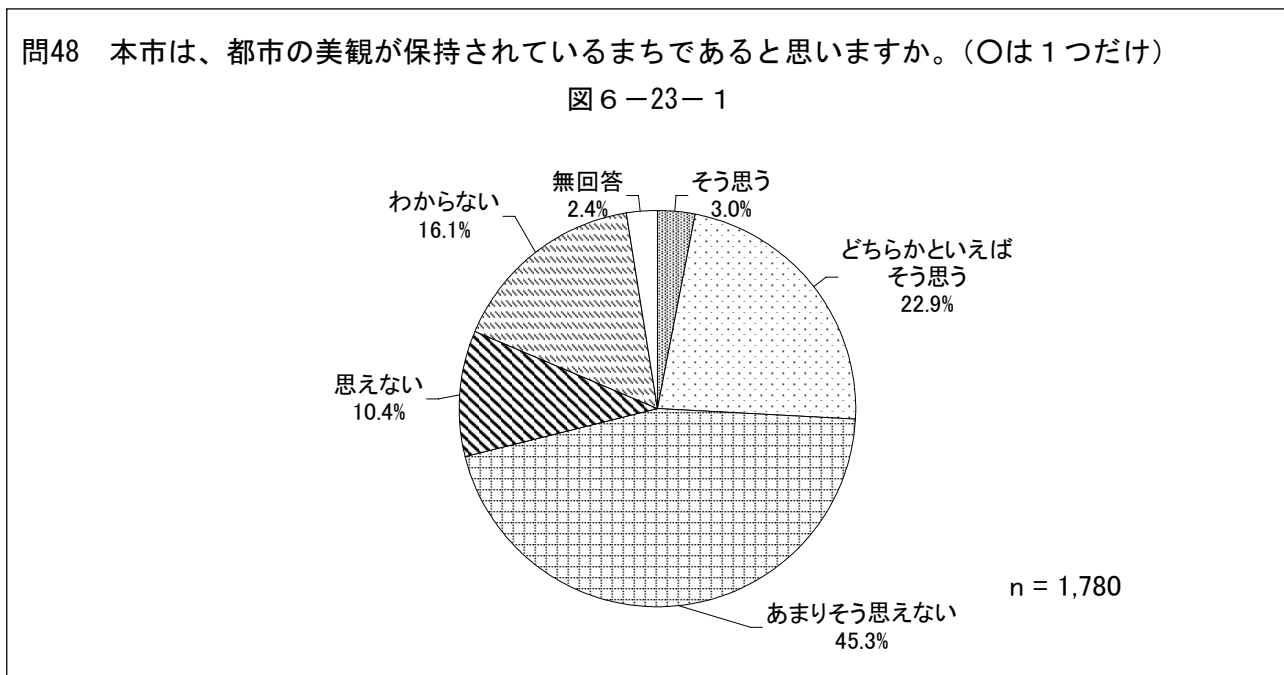
図6-22-3 都市の美観が損なわれる原因—居住地域別



居住地域別にみると、「放置自転車」は本庁管内（中央地域）、浅川・横山・館（西南部地域）、由木・由木東・南大沢（東部地域）で4割台半ばと高く、「落書き」は由井・北野（東南部地域）、由木・由木東・南大沢（東部地域）で4割弱と高くなっている。（図6-22-3）

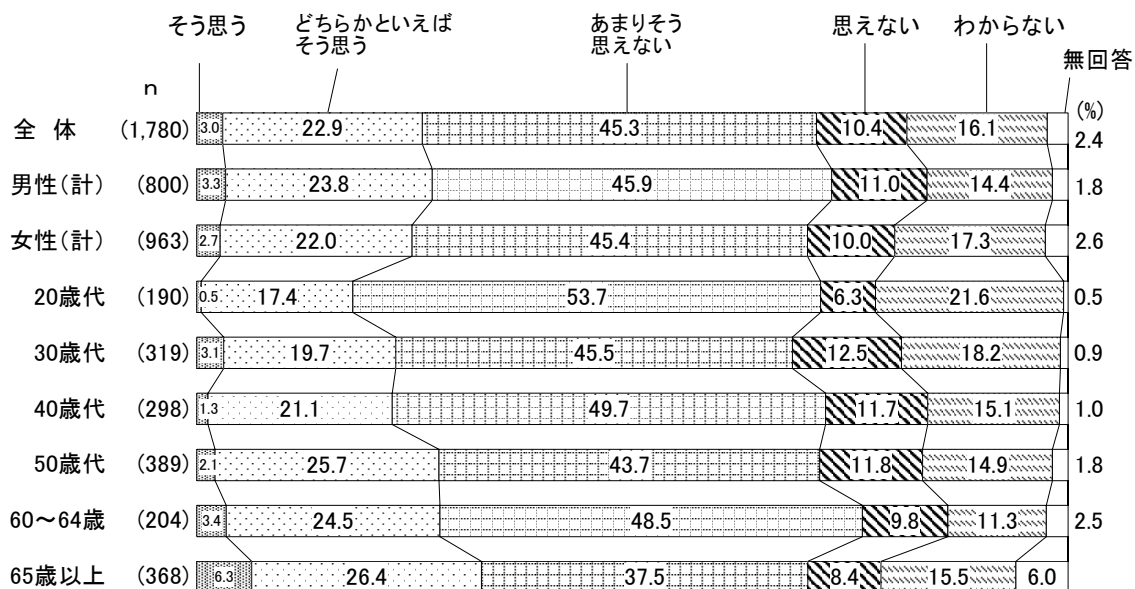
6-23 市は美観が保持されたまちだと思うか

◇『思えない』が5割台半ば



八王子市は美観が保持されたまちだと思うかどうか聞いたところ、「あまりそう思えない」が4割台半ば(45.3%)と最も高く、「思えない」(10.4%)と合わせた『思えない』が5割台半ばとなっている。(図6-23-1)

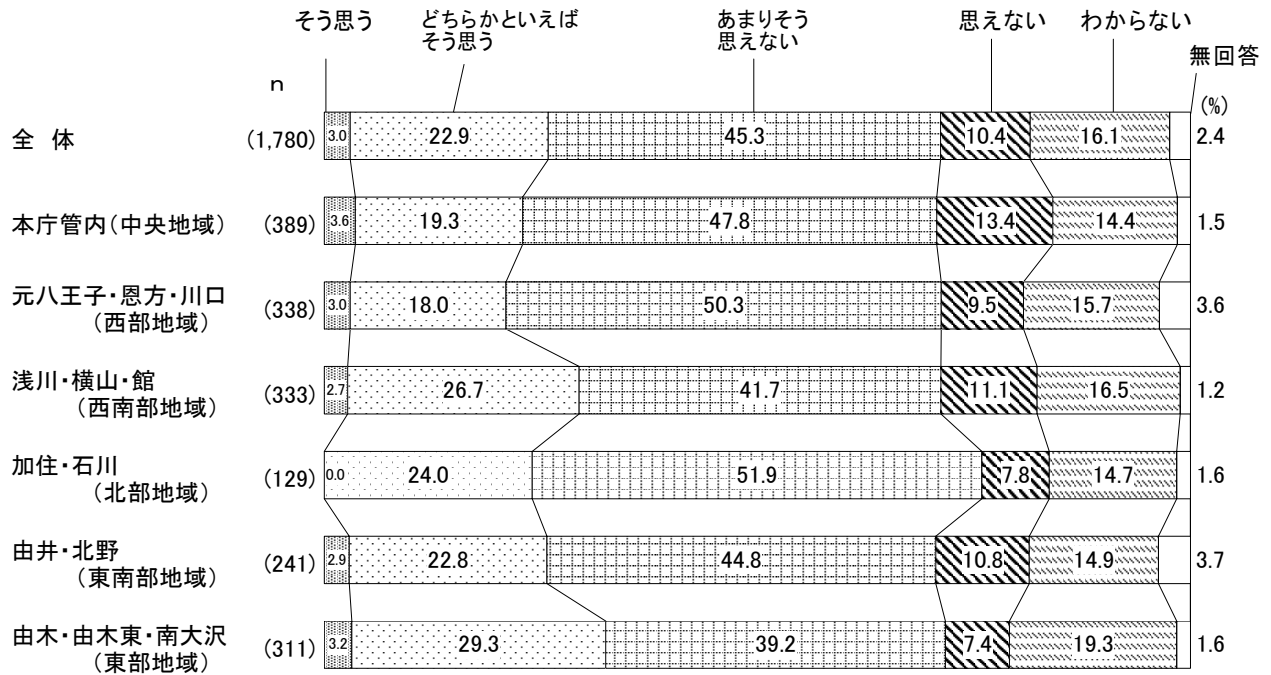
図6-23-2 市は美観が保持されたまちだと思うかー性別・年齢別



性別には大きな差はみられない。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合が増加する傾向がみられる。(図6-23-2)

図6-23-3 市は美観が保持されたまちだと思うか—居住地域別



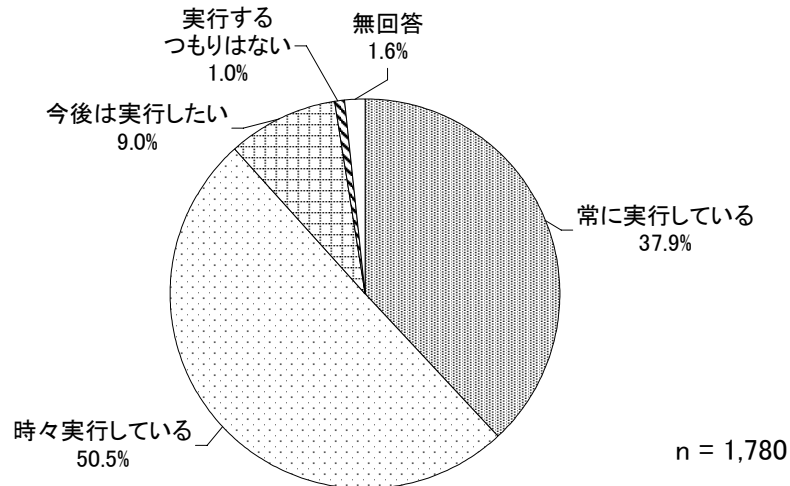
居住地域別にみると、『そう思う』は浅川・横山・館（西南部地域）、由木・由木東・南大沢（東部地域）で3割前後と高くなっている。（図6-23-3）

6-24 省エネ・省資源を実行しているか

◇『実行している』が9割弱の大多数

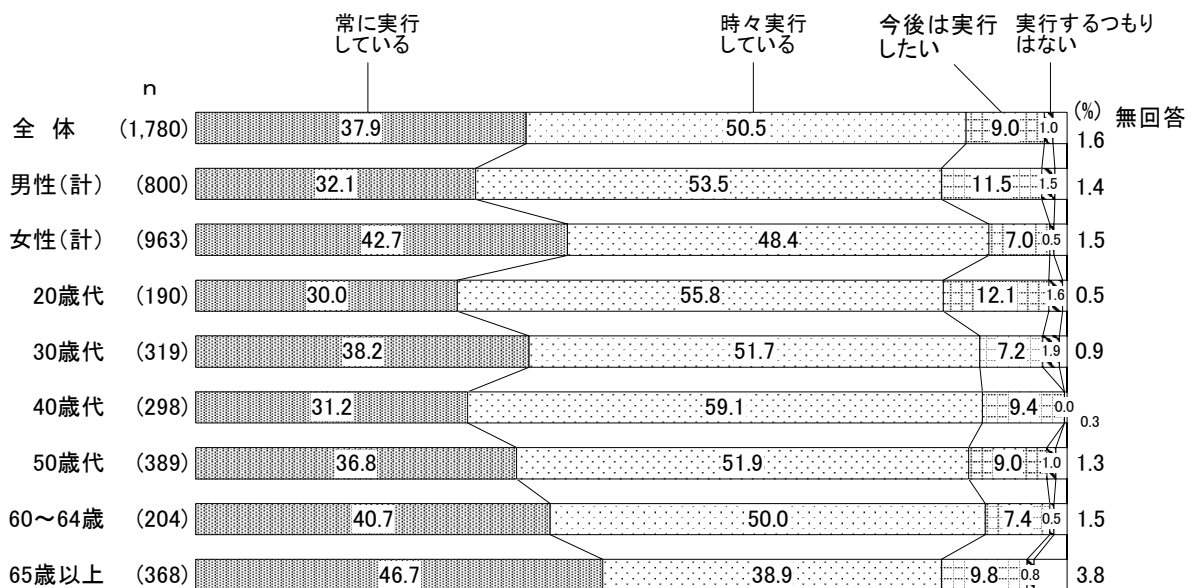
問49 省エネ・省資源のためには、冷暖房を控える、電気をこまめに消す、冷蔵庫の開閉に気を遣う、ごみ減量のためのリサイクルを心がける、マイカーの使用を控える、省エネ製品を利用する、買物用のバッグを持参して買い物に行くなどがありますが、あなたは、省エネ・省資源を意識して実行していますか。(○は1つだけ)

図6-24-1



省エネ・省資源の実行について聞いたところ、「常に行っている」が4割弱（37.9%）、「時々実行している」が5割を超え（50.5%）、両者をあわせた『実行している』は9割弱（88.4%）と高くなっている。（図6-24-1）

図6-24-2 省エネ・省資源を実行しているかー性別・年齢別



性別にみると、女性のほうが「常に行っている」が10.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、40歳代以降、年齢が高くなるほど「常に行っている」の割合が増加する傾向がみられる。（図6-24-2）